

看護教員のインストラクショナルデザイン力 の開発に関する研究

(研究課題番号 18592317)

平成18年度～平成20年度科学研究費補助金
(基盤研究(C))
研究成果報告書

平成21年3月

研究代表者 森田 敏子
熊本大学医学部保健学科 教授

目 次

はじめに	1
I 研究組織 研究経費	2
II 研究発表	4
III 研究の背景と目的	5
IV. インストラクショナル・デザイン ワークショップ概要	6
V. 講義概要 1	7
インストラクショナル・デザイン (ID) の「ア」	7
VI. 講義概要 2	25
インストラクショナル・デザイン (ID: アイディー) の「ア」	25
VII. 力試しのミニテスト 問題篇、回答篇	43
VIII. ワークシート、コメントシート、フリップシート	47
1. ワークシート	50
2. コメントシート	52
3. フリップシート	54
IX. インストラクショナルデザインに関する研修または セミナー、ワークショップを企画する際の日程の例	101
X. 研究成果	107
X I. シラバスの改善例	131
X II. 看護教員及び研修を企画する看護職の教育力を高める インストラクショナル・デザイン	141
X III. 熊本大学教員のためのシラバスの書き方	153
資料集	169

はじめに

近年、新人看護師をはじめ看護実践者の実践力の低下が指摘され、どのように育成すべきかが論じられている。また、新人看護師の早期離職が問題になり、実践現場への適応力を高める教育のあり方も課題となっている。これらは、看護教育に携わる人々の教育力の問題でもあることから、看護教育機関や看護実践現場では、看護学生や臨床看護師の看護実践力を高めるための取り組みが種々行われている。しかしながら、教育効果が上がっているとはいえない。この課題解決に向けて、有識者によって種々議論され、報告書等において教育内容や到達レベルが示されている。問題の所在は、それらが示されたからといって、学習者の知識・技術・態度の学びが深まり、看護実践力が高まるとは言えないことである。それらを解決するには、教育に携わる人々の教育力を問う必要がある。

このような背景から、看護実践力を高めるための人材育成を具現化する必要があり、看護教員の教育力あるいは研修を企画する立場にある看護職の研修力や教育力を高める方法について検討する課題を痛感するようになった。看護に関する人材育成に携わる人々の教育力を高めるには、討議法や役割演技（Role Playing）、模擬患者を活用した教育技法、問題基盤型学習（Problem Based Learning PBL）、話し合い学習（Learning Through Discussion LTD）など、様々な教育技法を身につける取り組みが有用である。そして、このような教育技法を身につけるとともに、教育をダイナミックにシステム的に構築できる方法はないかと模索していたとき、熊本大学においてフロンティア教育プロジェクトが設置され、メンバーの一人として教育力を高める方法について議論する機会を得た。このプロジェクトの成果は、2006年度よりスタートした熊本大学の教員のためのWEBサイトで、熊本大学ティーチングオンライン（Kumamoto University Teaching Online）として教授法が公開されている。

このプロジェクトで出会ったのが大学院社会文化科学研究科の北村士朗先生であり、大学院社会文化科学研究科に「教授システム学」専攻が開講されていることを知ったのである。「教授システム学」専攻は、教育や学習の効果・効率・魅力をシステム的な方法論であるインストラクショナル・デザイン（Instructional Design ID）を中核に据えて教授システムを学ぶ大学院である。科目履修生として、北村士朗先生からインストラクショナルデザインについて教えていただく中で、教育の課題や効果について議論し、二人の協力関係が構築されていった。次第に、インストラクショナルデザインは、教育力を高める一つの大きな主軸になると考え、看護教員や研修を企画する立場にある看護職で研修力や教育力を高めたいと思っている人たちに学びの機会を提供することで、教育力を伸ばすことができると思い至り、教育力を高める研究としてインストラクショナルデザイン（ID）に着目して取り組むことにしたのである。

ここにインストラクショナルデザインに関する研究をまとめるに当たり、これまでご支援くださり、ご協力いただきました関係各位の皆様に改めて深く御礼申し上げます。

平成21年 3 月

熊本大学医学部保健学科

森田 敏子

I 研究組織

平成 18～19 年度

研究代表者	森田 敏子	熊本大学医学部保健学科	教授
研究分担者	松永 保子	信州大学医学部保健学科	教授
	岩本 テルヨ	熊本大学医学部保健学科	教授
	(平成 19 年度異動に伴う所属変更：山口県立大学看護栄養学部)		
	木原 信市	熊本大学医学部保健学科	教授
	木子 莉瑛	熊本大学医学部保健学科	講師
	有松 操	熊本大学医学部保健学科	助教
	南家 貴美代	熊本大学医学部保健学科	助手
	早野 恵子	熊本大学医学部附属病院	助教
研究協力者	北村 士朗	熊本大学大学院社会文化科学研究科	
	岩本 恵美子	熊本市民病院	
	福山 美季	熊本大学医学部保健学科	

平成 20 年度

研究代表者：	森田 敏子	熊本大学医学部保健学科	教授
連携研究者：	松永 保子	信州大学医学部保健学科	教授
	岩本 テルヨ	山口県立大学看護栄養学部	教授
	木原 信市	熊本大学医学部保健学科	教授
	木子 莉瑛	熊本大学医学部保健学科	講師
	有松 操	熊本大学医学部保健学科	助教
	南家 貴美代	熊本大学医学部保健学科	助手
研究協力者	北村 士朗	熊本大学大学院社会文化科学研究科	
	早野 恵子	済生会熊本病院 (平成 20 年度異動に伴う研究組織変更)	
	岩本 恵美子	熊本市民病院	
	中西 真理子	桜が丘病院	
	福山 美季	熊本大学医学部保健学科	

研究経費

交付決定額 (配分額)

(金額単位；円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	2, 000, 000	0	2, 000, 000
平成 19 年度	900, 000	270, 000	1, 170, 000
平成 20 年度	500, 000	150, 000	650, 000
総計	3, 400, 000	420, 000	3, 820, 000

3. ワークショップ

1. 森田敏子、北村士朗
看護教員・看護職者のための～理論をもとにした看護教育デザイン研修～
インストラクショナル・デザインワークショップ
平成 19 年 3 月 10 日
2. 森田敏子、北村士朗
理論をもとにした看護教育デザイン研修～
インストラクショナル・デザインで研修・授業を改善！
平成 20 年 2 月 23 日

4. 公開講座

森田敏子、北村士朗
理論をもとにした看護教育・看護研修デザインセミナー～
インストラクショナル・デザインワークショップ
平成 20 年 12 月 20 日・21 日

5. 冊子

森田敏子
熊本大学公開講座からの学び
理論をもとにした看護教育・看護研修デザインセミナー～2008
インストラクショナル・デザインワークショップ
熊本大学医学部保健学科基礎看護学講座、2008, 12.

Ⅱ. 研究発表

1. 学会誌等

1. 森田敏子、松永保子、木子 莉瑛、有松 操、南家貴美代、岩本テルヨ、北村士朗：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究：—良い授業・研修をするための認識；ワークショップ前後の変化—、第 39 回日本看護学会論文集—看護教育、60-62、日本看護協会、2009. 2. 4.

2. 学会発表

1. 森田敏子、松永保子、木子莉瑛、南家貴美代、有松 操、岩本テルヨ：看護教員のインストラクショナルデザイン力の開発に関する研究—良い授業・研修をするために重要と認識していること、第 38 回日本看護学会—看護教育、91、日本看護協会、2007. 8. 9.
2. 森田敏子、松永保子：看護教員のインストラクショナルデザインの開発に関する研究—最高と思う授業に含まれるガニエの 9 教授事象と ARCS 動機づけ理論、日本応用心理学会第 74 回大会発表論文集論集、52、日本応用心理学会、2007. 9. 9.
3. 松永保子、森田敏子：看護教員のインストラクショナルデザインの開発に関する研究—インストラクショナルデザイン・ワークショップ参加者の ID への理解、日本応用心理学会第 74 回大会発表論文集論集、53、日本応用心理学会、2007. 9. 9.
4. 森田敏子、松永保子、岩本テルヨ：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究—最高と思う授業に含まれるガニエの 9 教授事象と ARCS 動機づけ理論—日本看護学教育学会、第 18 回学術集会講演集、266、日本看護学教育学会、2008. 8. 3.
5. 松永保子、森田敏子、岩本テルヨ：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究—ワークショップ参加者の ID への認識—日本看護学教育学会、第 18 回学術集会講演集、266、日本看護学教育学会、2008. 8. 3.
6. 森田敏子、松永保子、木子莉瑛、南家貴美代、有松 操、岩本テルヨ：看護教員のインストラクショナルデザイン力の開発に関する研究—良い授業・研修をするための；ワークショップ前後の変化、第 39 回日本看護学会—看護教育、37、日本看護協会、2008. 8. 21.
7. 松永保子、森田敏子：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究—ワークショップでインストラクショナルデザインを学ぶ目的の検討—、日本応用心理学会第 75 回大会発表論文集論集、16、日本看護協会、2008. 9. 14.
8. 森田敏子、松永保子、岩本テルヨ、木子 莉瑛、有松 操、南家貴美代：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 —ID 理論の理解を高めるインストラクショナルデザイン・ワークショップの効果—、第 28 回日本看護科学学会、286、日本看護協会、2008. 12. 21.
9. 松永保子、森田敏子、岩本テルヨ、木子 莉瑛、有松 操、南家貴美代：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 —ID ワorkshop参加者のシラバスについての認識—、第 28 回日本看護科学学会、555、日本看護協会、2008. 12. 21.

Ⅲ. 研究の背景と目的

我が国の人口の少子高齢化社会や人々の価値観の多様化が複相して健康思考が高まり、生活の質が追求されるとともに、情報化社会の中でITを駆使する医療環境となり、移植医療や遺伝子治療など高度先端医療が推進され、今日の医療・看護を取り巻く状況は、劇的に変貌を続けている。看護教育は社会の変化に応じて対応していく必然性があり、社会的、専門的な責務を果たしうる人材の育成が求められている。

平成10年の大学審議会の答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について－競争環境のなかで個性が輝く」では、大学教育ならびに授業における課題探求能力の育成を目指した教育研究の質向上が問題提起されている。文部科学省ならびに厚生労働省は、看護教育に関して「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」（平成14年）、「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会」（平成15年）、「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」（平成16年）、「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」（平成16年）などの報告書を次々に提出し、看護教育者が取り組む課題を提示するとともに、医療現場の看護職者の看護実践能力を高める取り組みを推進している。

このような社会背景から、看護教育の現場では、看護学生の看護実践能力を高める取り組みがなされているが、教育効果があがってきているとは言い難い現状がある。教育内容や到達レベルが報告書等によって示されたからといって、学習者が学ぶ力を身につけることになり、その結果、看護実践能力が高まるとは言えないからである。それらを解決するには、看護教員がどのように教えるのか、看護教員は教える力があるのかという教員の教育力を問題にする必要がある。

そこで本研究では、今日の保健医療に関するニーズに応じた看護実践能力を高める看護専門職者の人材育成を具現化するために、看護教員の教育力としてインストラクショナルデザイン(ID)に着目することとした。インストラクショナルデザイン力とは、これまで看護教員が行ってきた授業設計や指導案作成の能力を超えて、全体的にみて授業の構成をデザインする力である。教育内容をどうプレゼンテーションしたら良いか、どのように内容を構成したら良いか、どう質問したら良いか、どう評価したら良いかという全体を構成し、全体をまとめてデザインする力である。

本研究の取り組みは、看護教員の教育力を問い、教員の授業改善の取り組みによる教育方法の開発ならびに授業を魅力あるものに構成するためのインストラクショナルデザイン力を開発することは、看護教育をより魅力あるものとし、看護教員の資質を向上するという信念に基づいている。また、看護教員の教育能力を意識化し、看護教員の授業改善へ主体的な取り組みを刺激し、魅力ある教員として授業が展開できることを目指すインストラクショナルデザイン(ID)に焦点を当てることに学術的な特色がある。看護教員が自らの教育力を、授業デザインつまり、インストラクショナルデザイン力の視点から自己評価し、インストラクショナルデザインについて学び、インストラクショナルデザインを授業に取り入れ授業を展開する力を開発することは、看護教員の教育能力開発することになり、看護教育にとって意義があると考えている。

本研究によって、看護教員あるいは臨床の実践現場で研修を企画する立場にある看護職や研修の講師を務める看護職のインストラクショナルデザインに関する意識の実態が明らかになり、それら看護教育に携わる人々のインストラクショナルデザイン力を開発することによって教育力に関する資質を高めることで、看護教育の向上に寄与することを目的としている。

IV. インストラクショナル・デザイン・ワークショップ概要

1. 実施日

第1回目 平成19年3月10日

第2回目 平成20年2月23日

2. 実施場所

熊本大学医学部保健学科

3. 講師

ワークショップ主催者

北村士朗 ID 専門家 熊本大学大学院社会文化科学研究科「教授システム学」専攻

森田敏子 熊本大学医学部保健学科看護学専攻

ワークショップタスクフォース

尾澤重知、市川尚、高橋暁子、橋本諭、井ノ上憲司

4. 展開

ワークショップは、講義と演習で構成されている。

講義内容は、IDの基礎知識（ADDIEモデル、ガニエの9教授事象、ARCS動機づけ理論、認知的徒弟制度理論など）である。

（1）平成19年度 1回目

テーマ：看護教員・看護職者のための～理論をもとにした看護教育デザイン研修～

インストラクショナル・デザインワークショップ

内容：基礎知識として講義をした後、1グループ6人のグループを編成し、各グループにタスクフォースを配置した。講義→演習、講義→演習のスタイルで進行し、課題についてワークシートを使って考えたものを記述する。記述内容をグループ内で発表する。発表内容に対して参加者がコメントシートを使ってコメントし、アンケートに回答しながらワークが進行し、理解を深めている方法で展開した。

（2）平成20年度 2回目

テーマ：理論をもとにした看護教育デザイン研修～

インストラクショナル・デザインで研修・授業を改善！

内容：基礎知識として講義をした後、1グループ4～6人のグループ編成としたが、各グループにはタスクフォースを配置せず、研究代表者が全体司会者役割を担った。参加者の有志がシラバスを提示して発表し、そのシラバスの概要説明に対して、各自がコメントや疑問点、改善点などの意見を出し合い、シラバス改善のヒントを得る方法で展開した。

6. 倫理的配慮とデータ収集

参加予定者に事前に研究の主旨と研究協力依頼書およびアンケート用紙を郵送し、回答の協力を求めた。

ワークショップ当日にも研究の主旨を説明し、再度研究への協力を求めた。その際、研究への参加は自由意志であること、倫理的に十分に配慮することを説明した。

ワークショップ終了後にも、事後のアンケートへの回答を求め、回収箱に投函する方法でアンケート用紙を回収した。

VIII. ワークシート、コメントシート、フリップシート

セッション 1

ワークシート 1

Scene 1 科目・研修のガイダンス

Mission 1－1 題材の概要を説明する

Mission 1－2 グループメンバーからフィードバックを受ける

コメントシート 1

Mission 1－3 題材の概要を説明をする

フリップチャート

ワークシート1

Scene 1 科目・研修のガイダンス

ここは、あなたが講師を務める科目（研修）の説明会（ガイダンス）会場です。
目の前に座っている人たちは、受講申し込み（履修）しようかどうか検討している人たちです。さあ、受講者（履修者）をゲットしましょう。

Mission 1－1 題材の概要を説明する

あなたがこのワークショップで題材とする科目や研修の概要を、グループの皆さんに3分間で説明してください。

- ・ グループの皆さんは「受講しようかどうか検討している人」です。自分の題材をアピールしてください。説明内容は自由ですが、冒頭に「どのような人が対象者か」を説明してください。
- ・ 説明する内容をこのシートに整理し、説明原稿として使ってください。
- ・ 説明の際に、配布した「フリップチャート」（A3 版）を板書やスライドの代わりに使っていただいて結構です。

＜説明する内容＞

- ・ この科目・研修の対象者は……

グループ _____ ご氏名 _____

Mission 1－2 グループメンバーからフィードバックを受ける

あなたの説明に対する他のメンバーの皆さんのフィードバックを聞き、記録しましょう

<アンケート>それぞれに何票入ったか記録しましょう

Q1. この科目(研修)で何を学べるか理解できた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q2. この科目でどのように学ぶか、受講者として自分が何をするのが理解できた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q3. この科目を受講した後(受講を通じ・受講後の学びで)、自分がどのように成長できそうかイメージできた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q4. この科目(研修)に魅力を感じた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q5. この科目(研修)を受講(履修)したい

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>。

Q6. この科目(研修)の受講を受講対象となる人(学生、後輩など)に薦めますか？

4:強く薦める__票 3:薦める__票 2: たぶん薦めない__票 2:薦めない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q7. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？

4: とても参考になった__票 3 なる点もあった__票 1: 殆どならなかった__票 1:ならなかった__票

コメント(参考になった点など 任意):

コメントシート1

Mission 1-3 題材の概要を説明する

「受講しようかどうか検討している人」のつもりで、下記の項目についてご記入ください。

＜メモ欄＞ 説明を聞いていてポイントと思った点、気づいた点について自由に記録してください。

グループ _____ ご氏名 _____

発表者 _____ さん

<アンケート> 説明の内容について、「受講しようかどうか検討している人」の立場で下記のアンケートにお答えください。(該当欄に○をつけ、よろしければ理由などもお書きください)

Q1. この科目(研修)で何を学べるか、何ができるようになるかが理解できた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q2. この科目でどのように学ぶか、受講者として自分が何をするのかが理解できた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(何の訳にたちそうか、など 任意):

Q3. この科目を受講した後(受講を通じ・受講後の学びで)、自分がどのように成長できそうかイメージできた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q4. この科目(研修)に魅力を感じた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q5. この科目(研修)を受講(履修)したい

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして> 説明の内容についてグループメンバー(同僚)として記入してください。

Q6. この科目(研修)の受講を受講対象となる人(学生、後輩など)に薦めますか?

4:強く薦める 3:薦める 2: たぶん薦めない 1:薦めない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q7. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか?

4: とても参考になった 3 なる点もあった 2: 殆どならなかった 1:ならなかった

コメント(参考になった点など 任意):

インストラクショナルデザインワークショップ

フリップチャート

グループ _____ ご氏名 _____ Scene _____

セッション2

ワークシート2

Scene 2 授業・研修の終わりに当たり・・・

Mission2-1 振り返りと今後の展望を語る

Mission2-2 グループメンバーからフィードバックを受ける

コメントシート2

Mission2-3 振り返りと今後の展望を聞く

フリップチャート

ワークシート2

Scene2 授業・研修の終わりに当たり・・

あなたの授業・研修は無事に終了の時を(*)を迎えようとしています。
自分なりに「上手くいった」という手応えがあり、受講者の表情からも満足感が伺えます。
さあ、最後の締めくくりをしましょう。

*：題材として複数回実施される科目・授業・研修であれば最終回の終わりを想定してください。

Mission 2－1 振り返りと今後の展望を語る

受講者に、締めくくりとして次のことを3分間で説明してください。

(1)この授業・研修で何を学んだか

例：この研修で皆さんにID(アイディー)の基礎を学んでいただきました。主な項目は……

(2)学んだ結果、何ができるようになったか。

例：皆さんは、研修の概要の整理、学習目標や受講前提の明確化、研修の組み立てや動機付けができるようになりました。

(3)この授業・研修での学びを生かすために、この後何をして欲しいか。

例：IDを身につけるのは場数です。授業や研修で実践し、その結果をアンケートなどをもとに評価し改善し続けてください。

- ・ 説明する内容をこのシートに整理し、説明原稿に使ってください。
- ・ 説明の際に、配布した「フリップチャート」(A3 版)を板書やスライドの代わりに使っていただいて結構です。

(1)この授業・研修で何を学んだか

(2)学んだ結果、何ができるようになったか。

(3)この授業・研修での学びを生かすために、この後何をして欲しいか。

グループ_____ご氏名_____

Mission 2-2 グループメンバーからフィードバックを受ける

あなたの説明に対する他のメンバーの皆さんのフィードバックを聞き、記録しましょう

<アンケート> それぞれに何票入ったかも記録しましょう

Q1. 「(1)この授業・研修で何を学んだこと」を学んだことで「(2) 学んだ結果、できるようになったこと。」で説明されたことはできるようになりそう
だ。

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント:

Q2. 「(3)この授業・研修での学びを生かすために～」は「(2) 学んだ結果、できるようになったこと」ができれば実践・実現できそうだ

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント:

Q3. 「(3)この授業・研修での学びを生かすために、この後何をするよさそう」なことは実際にできそだ。

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>

Q4. この科目(研修)の受講を受講対象となる人(学生、後輩など)に薦めますか?

4:強く薦める__票 3:薦める__票 2: たぶん薦めない__票 1:薦めない__票 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q5. この科目(研修)は実現可能だと思いますか?

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q6. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか?

4: とても参考になった__票 3:なる点もあった__票 2:殆どならなかった__票 1:ならなかった__票

コメント:

コメントシート2

Mission2-3 振り返りと今後の展望を聞く

受講者のつもりで、下記の項目についてご記入ください。

<メモ>

説明を聞きながら以下の3項目について記録してください。(走り書きで結構です)

(1)この授業・研修で学んだこと

(2)学んだ結果、できるようになったこと。

(3)この授業・研修での学びを生かすために、この後何をするよさそうか

(4)その他、気づいたこと。

グループ _____ 氏名 _____

発表者 _____ さん

＜アンケート＞説明の内容について「受講者」になったつもりで、下記のアンケートにお答えください。

（該当欄に○をつけ、よろしければ理由などもお書きください）

Q1. 「(1)この授業・研修で何を学んだこと」を学んだことで、「(2) 学んだ結果、できるようになったこと。」で説明されたことはできるようになりそうだ(両者は整合していて、(2)に対して(1)に過不足はない。)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q2. 「(3)この授業・研修での学びを生かすために、この後何をするとよさそう」は「(2) 学んだ結果、できるようになったこと」ができれば実践・実現できそうだ(両者は整合していて、(3)に対して(2)に過不足はない。)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q3. 「(3)この授業・研修での学びを生かすために、この後何をするとよさそう」なことは実際にできそうだ。

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

＜グループメンバーとして＞説明の内容についてグループメンバー(同僚)として記入してください。

Q4. この科目(研修)の受講を受講対象となる人(学生、後輩など)に薦めますか？

4:強く薦める 3:薦める 2: たぶん薦めない 1:薦めない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q5. この科目(研修)は実現可能だと思いますか？(無理なところはない？ 難しすぎたり・易しすぎたりしない)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q6. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？

4: とても参考になった 3:なる点もあった 2: 殆どならなかった 1:ならなかった

コメント(参考になった点など 任意):

インストラクショナルデザインワークショップ

フリップチャート

グループ _____ 氏名 _____ Scene _____

セッション 3

ワークシート 3

Scene 3 授業・研修のはじめに (1)

Mission 3-1 受講の可否・要否とテストを説明する

Mission 3-2 グループメンバーからフィードバックを受ける

コメントシート 3

Mission 3-3 受講の可否・要否とテストの説明を受ける

フリップチャート

ワークシート3

Scene 3 授業・研修のはじめに (1)

これからあなたの授業・研修が始まります(*)。

受講者の皆さんは期待と不安の入り交じった面持ちで講師である皆さんを見えています。中には、受講するための経験やスキル・知識を持っていない人、逆に、もう既に取りあげる内容を身につけていて受講する必要が無いひと混じっているかもしれません。また、修了がどのように認定されるか、も受講者の大きな興味であるはずです。あなたは説明をはじめます……。

* : 題材として複数回実施される科目・授業・研修であれば第 1 回の最初を想定してください。

Mission 3 - 1 受講の可否・要否とテストを説明する

受講者に、次のことを 3 分間で説明してください。(1)(2)は「無し」でも構いません。

(1)受講前提となる経験、知識やスキル(何ができないとついてこれないか?)

例: この研修は授業や研修を計画・実施した経験があることを前提に、ID による授業改善の基礎を学びます。

この授業では Windows パソコンの基本操作(日本語入力、マウス操作)ができることが前提です。

(2)この授業・研修を受講する必要が無い人

例: 既にインストラクショナルデザインを用いて授業設計や実施をしている人は受講する必要がありません。

この授業は既に Web ページ(ホームページ)を公開している人は受講不要です。

(3)修了認定(テスト)として、何をどのように問うか?

例: 授業改善案を作成し、講師が「ID にのっとった有効な改善策」と認めた場合に修了と認めます。

ID に関する基本用語に関するペーパーテストで80点以上をとったら修了と認めます。

Web ページを実際に公開し、担当教員その Web ページを見ることができれば合格とします。

- ・ 説明する内容をこのシートに整理し、説明原稿に使ってください。
- ・ 説明の際に、配布した「フリップチャート」(A3 版)を板書やスライドの代わりに使っていただいて結構です。

(1)受講前提となる経験、知識やスキル(無し、でも構いません)

(2)この授業・研修を受講する必要が無い人(無し、でも構いません)

グループ _____ ご氏名 _____

(3)修了認定(テスト)として、何をどのように問うか？

何を(内容)

どのように(手段)

Mission 3-2 グループメンバーからフィードバックを受ける

あなたの説明に対する他のメンバーの皆さんのフィードバックを聞き、記録しましょう

<アンケート> それぞれに何票入ったかも記録しましょう

Q1. 「受講前提となる経験、知識やスキルが理解でき、納得できた。

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント:

Q2. この授業・研修を受講する必要が無い人に納得感がある

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント:

Q3. 修了認定(テスト)に納得感がある

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>

Q4. この科目(研修)の「受講前提」や「受講する必要が無い人」は妥当だ

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q5. この修了認定(テスト)はは実現可能だと思いますか？

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q6. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？

4: とても参考になった__票 3 なる点もあった__票 2: 殆どならなかった__票 1:ならなかった__票

コメント:

コメントシート3

Mission3-3 受講の可否・要否とテストの説明を受ける

受講者のつもりで、下記の項目についてご記入ください。

<メモ>

説明を聞きながら以下の3項目について記録してください。(走り書きで結構です)

(1)受講前提となる経験、知識やスキルは？(無し、でも構いません)

(2)この授業・研修を受講する必要が無い人は？(無し、でも構いません)

(3)修了認定(テスト)として、何をどのように問われるか？

何を(内容)

どのように(手段)

(4)その他、気づいたこと。

グループ _____ ご氏名 _____

発表者 _____ さん

<アンケート>

説明の内容について「受講者」になったつもりで、下記のアンケートにお答えください。

(該当欄に○をつけ、よろしければ理由などもお書きください)

Q1. 「受講前提となる経験、知識やスキルが理解でき、納得できた。

(自分が該当するかどうか分からない、それだけで大丈夫？という不安は無い)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q2. この授業・研修を受講する必要が無い人に納得感がある

(自分が該当するかどうか分からない、該当しても本当に受講しなくて大丈夫？という不安は無い)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q3. 修了認定(テスト)に納得感がある

(「何をテストされるかよく分からない」「難しすぎそうだ」「易しすぎそうだ」という不安は無い)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>説明の内容についてグループメンバー(同僚)として記入してください。

Q4. この科目(研修)の「受講前提」や「受講する必要が無い人」は妥当だ。

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q5. この修了認定(テスト)は実現可能だと思いますか？(時間的、採点・評価に問題や不明点は無い)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q6. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？

4: とても参考になった 3:なる点もあった 2: 殆どならなかった 1:ならなかった

コメント(参考になった点など 任意):

インストラクショナルデザインワークショップ

フリップチャート

グループ _____ 氏名 _____ Scene _____

セッション 4

ワークシート 4

Scene 4 授業・研修のはじめに (2)

Mission 4-1 進め方と「ウリ」を説明する

ガニエの9教授事象を使って整理する

Mission 4-2 グループメンバーからフィードバックを受ける

コメントシート 4

Mission 4-3 進め方と「ウリ」の説明を受ける

フリップチャート

ワークシート4

Scene 4 授業・研修のはじめに（2）

授業・研修のはじめにあたり、まず受講の可否・要否やテストについて説明しました。「対象外の方は退出して構いません」と言ったところ、数名が出て行きました。これで「落ちこぼれ」「吹きこぼれ」はある程度防げたようです。

次に、本当に対象となる受講者にこの授業や研修の進め方を説明します。(*)。

受講対象であっても、受講するか否かは相手次第。ここで納得が得られないと、受講者が減ってしまうかもしれません。あなたは説明をはじめます……。

*：題材として複数回実施される科目・授業・研修であればその全体の説明でも、第1回など特定の一回分や毎回のパターンを説明いただいても構いません。

Mission 4－1 進め方と「ウリ」を説明する

受講者に、「この授業・研修の進め方：どのような手順で進んでいくか。どのようなことをするのか」を3分間で説明してください。

- ・ 説明する内容を手順1～2に従いこのシートに整理し、説明原稿に使ってください。
- ・ 説明の際に、配布した「フリップチャート」(A3版)を板書やスライドの代わりに使っていただいて結構です

(1)この授業・研修の進め方：どのような手順で進んでいくか。どのようなことをするのか

手順1:「ガニエの9教授事象」を使って整理し、授業や研修を組み立ててみましょう。

(今日のところは、全部埋まらなくても構いません)

導入 新しい学 習への準 備を整え る	1.学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	
	2.学習者に目標を知らせる。 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	
	3.前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出す	

情報 提示 新しいこと に触れる	4.:新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	
	5.学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	
学習 活動 自分のもの にする	6.:練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	
	7.フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服 する	
まとめ でき具合 を確か め、忘 れな いよう にする	8.:学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わ う	
	9.:保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにす る	(この部分は授業・研修後)

手順2: 上記をどのように説明するか整理しましょう。

Mission 4 – 2 グループメンバーからフィードバックを受ける

あなたの説明に対する他のメンバーの皆さんのフィードバックを聞き、記録しましょう

＜アンケート＞ それぞれに何票入ったかも記録しましょう

Q1. この授業・研修で自分が何をするのが受講者として良く分かった。

4:強く思う__票 3:思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント:

Q2. この授業・研修は学びやすそう・分かりやすそうだ。

4:強く思う__票 3:思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント:

Q3. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？（「イタダキ」なアイデアはありましたか？）

4: とても参考になった__票 3 なる点もあった__票 2: 殆どならなかった__票 1:ならなかった__票

コメント(参考になった点、「イタダキ」など 任意)

グループ 氏名

コメントシート4

Mission4-3 進め方と「Uri」の説明を受ける

受講者のつもりで、下記の項目についてご記入ください。

- ・この授業・研修の進め方:どのような手順で進んでいくか。受講者として何をするのか

<メモ>

説明を聞きながら記録してください。(走り書きで結構です)

グループ _____ 氏名 _____

発表者 _____ さん

<アンケート>

説明の内容について「受講者」になったつもりで、下記のアンケートにお答えください。

(該当欄に○をつけ、よろしければ理由などもお書きください)

Q1. この授業・研修で自分が何をするのかが受講者として良く分かった。

(自分が該当するかどうか分からない、それだけで大丈夫？という不安は無い)

4:強く思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 2:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q2. この授業・研修は学びやすそう・分かりやすそうだ。

(自分が該当するかどうか分からない、該当しても本当に受講しなくて大丈夫？という不安は無い)

4:強く思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 2:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>説明の内容についてグループメンバー(同僚)として記入してください。

Q3あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？(「イタダキ」なアイデアはありましたか？)

4: とても参考になった 3 なる点もあった 2: 殆どならなかった 1:ならなかった

コメント(参考になった点、「イタダキ」など 任意)

インストラクショナルデザインワークショップ

フリップチャート

グループ _____ ご氏名 _____ Scene _____

セッション5

ワークシート5

Scene 5 授業・研修のはじめに（3）

Mission5－1 進め方と「Uri」を説明する

この授業・研修のUri：魅力的に感じてもらうための工夫

A R C Sモデル

Mission5－2 グループメンバーからフィードバックを受ける

コメントシート5

Mission5－3 「Uri」の説明を受ける

フリップチャート

ワークシート5

Scene 5 授業・研修のはじめに（3）

次に、この授業や研修の進め方や「ウリ」を説明します。（*）。
受講対象であっても、受講するか否かは相手次第。ここで魅力的だと感じてもらえないと、受講者が減ってしまうかもしれません。あなたは説明をはじめます……。

*：題材として複数回実施される科目・授業・研修であればその全体の説明でも、第1回など特定の一回分や毎回のパターンを説明いただいても構いません。

Mission 5－1 進め方と「ウリ」を説明する

受講者に、この授業・研修のウリ：魅力的に感じてもらうための工夫を3分間で説明してください。説明する内容を手順1～2に従いこのシートに整理し、説明原稿に使ってください。

- 説明の際に、配布した「フリップチャート」（A3版）を板書やスライドの代わりに使っていただいて結構です

この授業・研修のウリ：魅力的に感じてもらうための工夫
手順1：ARCSモデルにのっとり、思いつくまま、表にアイディアを埋めていきましょう。

Attention 注意＝面白そうだ	
Relevance 関連性 ＝やりがいがありそうだ	
Confidence 自信 ＝やればできそうだ	
Satisfaction 満足感 ＝やってよかった	

Mission 5－2 グループメンバーからフィードバックを受ける

あなたの説明に対する他のメンバーの皆さんのフィードバックを聞き、記録しましょう

<アンケート> それぞれに何票入ったかも記録しましょう

Q1. この授業・研修は面白そうだ(そんな予感がする)。

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q2. この授業・研修はやりがいがありそうだ。(自分に役立ちそうだ。そんな予感がする)

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q3. この授業・研修は自分にもやればできそうだ。(ついていけそうだ。そんな予感がする)

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q4. この授業・研修を終えたとき、満足感・達成感を得られそうだ(そんな予感がする)

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q5あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？(「イタダキ」なアイデアはありましたか？)

4: とても参考になった__票 3:なる点もあった__票 2: 殆どならなかった__票 1:ならなかった__票

コメント(参考になった点、「イタダキ」など 任意)

グループ _____ 氏名 _____

手順2: 上記のどれを受講者に説明するか決めましょう。(言わぬが花、というものもあります！)

裏面に続きます

グループ _____ 氏名 _____

このグループは、

このグループは、

このグループは、

このグループは、

このグループは、

コメントシート5

Mission5-3 「Uri」の説明を受ける

受講者のつもりで、下記の項目についてご記入ください。

<メモ>

説明を聞きながら以下の2項目について記録してください。(走り書きで結構です)

(1) この授業・研修のUri

(2) その他、気づいたこと。

グループ _____ ご氏名 _____

発表者 _____ さん

<アンケート>

説明の内容について「受講者」になったつもりで、下記のアンケートにお答えください。

(該当欄に○をつけ、よろしければ理由などもお書きください)

Q1. この授業・研修は面白そうだ(そんな予感がする)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q2. この授業・研修はやりがいがありそうだ。(自分に役立ちそうだ。そんな予感がする)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q3. この授業・研修は自分にもやればできそうだ。(ついていけそうだ。そんな予感がする)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q4. この授業・研修を終えたとき、満足感・達成感を得られそうだ(そんな予感がする)

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>説明の内容についてグループメンバー(同僚)として記入してください。

Q5 あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか? (「イタダキ」なアイデアはありましたか?)

4: とても参考になった 3:なる点もあった 2: 殆どならなかった 1:ならなかった

コメント(参考になった点、「イタダキ」など 任意)

インストラクショナルデザインワークショップ

フリップチャート

グループ _____ 氏名 _____ Scene _____

セッション 6

ワークシート 6

Scene 6 再び、科目・研修のガイダンス

Mission 6－1 題材の概要を説明する

Mission 6－2 グループメンバーからフィードバックを受ける

コメントシート 6

Mission 6－3 概要の説明を受ける

フリップチャート

ワークシート6

Scene6 再び 科目・研修のガイダンス

ここは、あなたが講師を務める科目（研修）の説明会（ガイダンス）会場です。
目の前に座っている人たちは、受講申し込み（履修）しようかどうか検討している人たちです。さあ、受講者（履修者）をゲットしましょう。

Mission6－1 題材の概要を説明する

あなたがこのワークショップで題材とする科目や研修の概要を、グループの皆さんに3分間で説明してください。

- ・ グループの皆さんは「受講しようかどうか検討している人」です。自分の題材をアピールしてください。説明内容は自由ですが、冒頭にどのような人が対象者かを説明してください。
- ・ 今日、学んだ内容をもとに、説明する内容をこのシートに整理し、説明原稿に使ってください。
- ・ 説明の際に、配布した「フリップチャート」（A3 版）を板書やスライドの代わりに使っていただいて結構です。

<説明する内容>

・この科目・研修の対象者は……

グループ_____ご氏名_____

Mission6-2 グループメンバーからフィードバックを受ける

あなたの説明に対する他のメンバーの皆さんのフィードバックを聞き、記録しましょう

<アンケート>それぞれに何票入ったか記録しましょう

Q1. この科目(研修)で何を学べるか理解できた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q2. この科目でどのように学ぶか、受講者として自分が何をするのが理解できた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q3. この科目を受講した後(受講を通じ・受講後の学びで)、自分がどのように成長できそうかイメージできた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q4. この科目(研修)に魅力を感じた

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q5. この科目(研修)を受講(履修)したい

4:強く思う__票 3:そう思う__票 2:あまりそう思わない__票 1:全くそう思わない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして>。

Q6. この科目(研修)の受講を受講対象となる人(学生、後輩など)に薦めますか?

4:強く薦める__票 3:薦める__票 2: たぶん薦めない__票 1:薦めない__票 0:わからない__票

コメント(理由など 任意):

Q7. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか?

4: とても参考になった__票 3 なる点もあった__票 2: 殆どならなかった__票 1:ならなかった__票

コメント(参考になった点など 任意):

コメントシート6

Mission6-3 概要の説明を受ける

「受講しようかどうか検討している人」のつもりで、下記の項目についてご記入ください。

<メモ欄> 説明を聞いていてポイントと思った点、気づいた点について自由に記録してください。

グループ _____ 氏名 _____

発表者 _____ さん

<アンケート> 説明の内容について、「受講しようかどうか検討している人」の立場で下記のアンケートにお答えください。(該当欄に○をつけ、よろしければ理由などもお書きください)

Q1. この科目(研修)で何を学べるか、何ができるようになるかが理解できた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q2. この科目でどのように学ぶか、受講者として自分が何をするのが理解できた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(何の訳にたちそうか、など 任意):

Q3. この科目を受講した後(受講を通じ・受講後の学びで)、自分がどのように成長できそうかイメージできた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q4. この科目(研修)に魅力を感じた

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q5. この科目(研修)を受講(履修)したい

4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

<グループメンバーとして> 説明の内容についてグループメンバー(同僚)として記入してください。

Q6. この科目(研修)の受講を受講対象となる人(学生、後輩など)に薦めますか？

4:強く薦める 3:薦める 2: たぶん薦めない 2:薦めない 0:わからない

コメント(理由など 任意):

Q7. あなたが科目・研修をデザインする上での参考になりましたか？

4: とても参考になった 3 なる点もあった 2: 殆どならなかった 1:ならなかった

コメント(参考になった点など 任意)

インストラクショナルデザインワークショップ

フリップチャート

グループ _____ 氏名 _____ Scene _____

IX. インストラクショナルデザインに関する研修または
セミナー、ワークショップを企画する際の日程の例

1. 一日間で企画する日程（案）

実施日：〇〇年〇月〇日（〇曜日）

時間配分		項 目	担当者
8:00～9:00	60 分	受付 ・資料配付、グループ番号確認 ・昼食希望の有無の確認 ・駐車券希望の確認	
9:00～9:20	20 分	オリエンテーション（会場使用上の注意ほか） 開会式 本セミナーの主旨、概要、参加者自己紹介	森田 敏子
9:20～10:20	60 分	レクチャー 成人学習理論、学習モデル、ADDIE モデル、授業あれこれ	北村 士朗
10:20～10:30	10 分	休憩 参加者交流	
10:30～11:30	60 分	WS 1：セッション 1 Scene 1 科目・研修のガイダンス、コメント 使用シート・ワークシート 1 ・コメントシート 1 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
11:30～12:30	60 分	WS 2：セッション 2 Scene 2 授業・研修の終わりに当たり、コメント 使用シート・ワークシート 2 ・コメントシート 2 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
12:30～13:20	50 分	ランチタイム 参加者交流	
13:20～14:20	60 分	WS 3：セッション 3 Scene 3 科目・研修のはじめに（1） 使用シート・ワークシート 3 ・コメントシート 3 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
14:20～14:30	10 分	休憩 参加者交流	
14:30～16:00	90 分	WS 4：セッション 4 Scene 4 科目・研修のはじめに（2） 進め方と「ウリ」を説明する； ガニエの 9 教授事象、ARCS 理論を使った整理 使用シート・ワークシート 4 ・コメントシート 4 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
16:00～16:10	10 分	休憩 参加者交流	
16:10～17:40	90 分	WS 5：セッション 5 Scene 6 再び 科目・研修のガイダンス 題材の概要を説明する 使用シート・ワークシート 5 ・コメントシート 5 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
17:40～18:00	50 分	・ 全体の振り返り、質疑応答 ・ フリーディスカッション ・ アンケート記入 ・ 修了式：修了証書授与	北村 士朗 森田 敏子

希望者があれば個別相談に応じる。

2. 二日間で企画する日程（案）

一日目 実施日：〇〇年〇月〇日（〇曜日）

時間配分		項 目	担当者
8:30～9:30	60 分	受付 ・資料配付、グループ番号確認 ・昼食希望の有無の確認 ・駐車券希望の確認	
9:30～9:50	20 分	オリエンテーション（会場使用上の注意ほか） 開会式 本セミナーの主旨、概要、自己紹介	森田 敏子
9:50～11:00	70 分	レクチャー 成人学習理論、学習モデル、ADDIE モデル、授業あれこれ	北村 士朗
11:00～11:10	10 分	休憩 参加者との交流	
11:10～12:20	70 分	セッション 1 Scene 1 科目・研修のガイダンス、コメント 使用シート・ワークシート 1 ・コメントシート 1 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
12:20～13:20	60 分	ランチタイム 参加者との交流	
13:20～13:40	20 分	リフレクション 午前中の振り返り	北村 士朗 森田 敏子
13:40～15:10	90 分	セッション 2 Scene 2 授業・研修の終わりに当たり、コメント 使用シート・ワークシート 2 ・コメントシート 2 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
15:10～15:20	10 分	リフレクション ワークショップ 2 について	北村 士朗 森田 敏子
15:20～15:30	10 分	休憩 参加者との交流	
15:30～17:00	90 分	セッション 3 Scene 3 科目・研修のはじめに（1） 使用シート・ワークシート 3 ・コメントシート 3 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
17:00～17:10	10 分	リフレクション ワークショップ 3 について 今日の全体の振り返り・質疑応答	北村 士朗 森田 敏子
17:10～18:00	50 分	・フリーディスカッション ・本日の終了の挨拶・明日の予告 ・宿題 出口と入り口：確認テスト	北村 士朗 森田 敏子

希望者があれば、個別相談に応じる。

二日目 実施日：〇〇年〇月〇日（〇曜日）

時間配分		項 目	担当者
9:00～9:30		受付 ・昼食希望の有無の確認 ・駐車券希望の確認	
9:30		開催の挨拶	森田 敏子
9:30～9:40	10 分	宿題の回答 出口と入り口：確認テストとその解説 学習のフィードバック 使用シート ・確認テスト：問題篇 ・確認テスト：回答篇	北村 士朗
9:40～9:50	10 分	プレゼンテーションのコツ	北村 士朗
9:50～10:50	60 分	前日の振り返り 個人作業 発表 1人5分以内のプレゼンテーション	北村 士朗 森田 敏子
10:50～11:00	10 分	休憩 参加者との交流	
11:00～12:30	90 分	セッション4 Scene4 科目・研修のはじめに（2） 進め方と「Uri」を説明する； ガニエの9教授事象を使った整理 使用シート・ワークシート4 ・コメントシート4 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
12:30～13:10	40 分	昼食・参加者との交流	
13:10～14:40	90 分	セッション5 Scene5 科目・研修のはじめに（3） 進め方と「Uri」を説明する ARCS モデルを使ったアイデア 使用シート・ワークシート4 ・コメントシート4 ・フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
14:40～15:00	20 分	休憩 参加者との交流	
15:00～17:10	130 分	セッション6 Scene6 再び 科目・研修のガイダンス 題材の概要を説明する 使用シート・ワークシート6 ・コメントシート6 ・ フリップチャート	北村 士朗 森田 敏子
17:10～17:40	30 分	・全体の振り返り ・質疑応答 ・日常的に抱えている疑問や課題の検討 ・本セミナーに対するアンケート記入	北村 士朗 森田 敏子
17:40～17:50	10 分	修了式：修了証書授与	北村 士朗 森田 敏子

1. 希望者があれば、個別相談に応じる。
 2. 希望者とのチーズパーティ；茶菓でフリートークし、交流を深める。
- （完了）

X. 研究成果

【報告 1】

1. 看護教員のインストラクショナルデザイン力の開発に関する研究

— 良い授業・研修をするために重要と認識していること —

I はじめに

今日、看護教育の質的向上に向けて、看護教員の教育力が問われている。その教育力を高める一方法としてインストラクショナルデザイン（以下、ID）がある。IDは、授業案の作成のみならず、授業の構成をデザインする力であり、その構成要素には、授業の入口（学習者の前提条件）と出口（学習者の到達目標）を明らかにすること¹⁾などが含まれる。

我々は看護教員のIDに関する研究に取り組み、今回は第一段階として、質のよい授業をするための重要な視点に着目し検討した。

II 研究目的

看護教員あるいは卒後教育の研修を企画する立場にある看護師が、よい授業・研修をするために認識している重要な点を明確にする。

III 研究方法

1. 対象: IDに関するワークショップに参加した看護教員と卒後教育の研修を企画する看護師。
2. 期間: 平成 19 年 2 月 1 日～3 月 30 日。
3. 方法: IDに関するワークショップ（講師及びインストラクターはIDの専門家）を開催し、自記式調査用紙を用いてワークショップ前後の認識を調査した。事前調査はワークショップ参加者に郵送し、事後調査はワークショップ後に配布し、事前・事後調査とも投書箱に入れる方法で回収した。調査項目は「シラバスを知っているか」「IDを知っているか」「よい授業をするために重要なことは何か」である。
4. 分析: 記述された内容を最小の意味のある用語で分類し、カテゴリー化した。カテゴリー化においては、研究者間で討議を重ね、一定期間において一致を確認し、信頼性を確保した。

IV 倫理的配慮

研究対象者に研究目的と方法を説明後、研究は自由意思で参加できること、参加しなくてもワークショップにおいて不利益を被ることはないこと、いつでも辞退できること、得られたデータは研究目的のみに使用すること、プライバシーおよび個人情報の保護、匿名性を保障し、個人または教育機関あるいは施設が特定されないように配慮することを説明し、同意を得た。

V 結果

事前調査は 25 人（83.3%）、事後調査は 23 人（76.7%）から協力が得られた。職別として、看護教員 20 人（80%）（専門学校教員 19 人、大学教員 1 人）、看護師 5 人（20%）であった。

事前調査では、シラバスを「知っている；21 人（84%）」、「知らない；4 人（16%）」であった。

IDについては、全員がはじめて聞いたと回答し、事前に知っている者はいなかった。

「よい授業をするために重要なことは何か」については、事前調査では 175 件、事後調査では 133 件の用語が抽出された。

カテゴリー化すると、事前調査では 12 カテゴリーが構成され、「教員の話術 14.3%」と「内容の理解 14.3%」が 1 位で、以下は「教師の人間性（熱意など） 11.4%」、「教育方法 11.4%」、「授業の構成 9.1%」、「教材 8.6%」の順であった。

事後調査では 14 カテゴリーが構成され、「出口：到達目標の明確化 18.0%」、「入口：前提条件、レディネス把握 12.0%」、「教育方法 11.3%」、「内容の理解 9.8%」、「教師の話術 7.5%」。「学習者の学習意欲を喚起する 7.5%」の順であった。

VI 考察

IDは「研修の効果と効率と魅力を高めるための体系的なアプローチに関する方法論である。」¹⁾と定義されている。調査結果から、看護教員の中にはシラバスを知らない者もあり、IDの普及と活用はこれからの課題であることが示された。

ワークショップ前に、よい授業をするために重要であると認識していたことは、教員の話術と内容理解、教師の人間性などであったが、教育をデザインする体系的な思考が重要であるとは認識していなかった。ワークショップ後は、教員の話術を重要しつつも、授業の出口と入口に意識が向き、IDの視点から授業を体系的に思考する大切さを認識し始めており、IDの基礎が理解できたと推察された。今後、看護教員のID力を高め、開発していく必要性が示唆された。

文献

- 1) 鈴木克明：eラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDFファイル)、メディア教育開発センター、2003.

【報告 2】

看護教員のインストラクショナルデザインの開発に関する研究 ー最高と思う授業に含まれるガニエの9教授事象と ARCS 動機づけ理論ー

I はじめに

看護学教育においては、学生の看護実践能力を高めることが課題であり、看護教員の教育力の向上が求められている。教育力を高める一方法としてインストラクショナルデザイン（Instructional Design）（以下、ID）がある。IDは、授業の効果と効率と魅力を高めるためのシステムのなアプローチに関する方法論である¹⁾。IDは、授業案の作成のみならず、授業の構成をデザインすることであり、その構成要素には、授業の入口（学習者の前提条件）と出口（学習者の到達目標）の明確化などが含まれている¹⁾。

第一段階として、看護教員のIDを高める研究の取り組みとしてワークショップを開催し、質のよい授業をするための重要な視点に着目して報告した²⁾。今回は、最高と思われる授業について、IDの視点から検討した。

II 研究目的

看護教員あるいは現任教育の研修を企画する立場にある看護師が過去に受けた授業や研修の中から、最高と思う授業にIDの視点が含まれているかどうかを明らかにした。

III 研究方法

対象：IDに関するワークショップに参加した看護教員と現任教育の研修を企画する看護師。

調査期間：平成19年2月1日～3月10日。

方法：IDに関するワークショップ（講師およびインストラクターはIDの専門家）を開催し、自記式調査用紙を用いてワークショップ前に参加者に郵送し回答を求め、ワークショップ当日に投書箱に入れる方法で回収した。

調査項目は、「これまで受講した授業・研修で最高と思う授業や研修とその理由」である。ワークショップは、講義と演習で構成された。講義内容は、IDの基礎知識（ADDIEモデル、ガニエの9教授事象、ARCS動機づけ理論など）である。

分析：記述内容を最小の意味のある用語で整理し、ガニエの9教授事象とARCS動機づけ理論、講師の人間性等でカテゴリー化した。分析は、研究者間で討議を重ね、一定期間をおいて一致を確認し、信頼性を確保した。

IV 倫理的配慮

研究対象者に研究目的を説明し、研究は自由意思で参加できること、参加しなくてもワークショップにおいて不利益を被ることはないこと、いつでも辞退できること、得られたデータは研究目的にのみに使用すること、プライバシーおよび個人情報保護は保護され、匿名性を保障し、個人または教育機関あるいは施設が特定されないように配慮することを説明し、同意を得た。

V 結果

回収率は84.6%（22人）で、職種としては看護教員72.7%（16人中、専門学校教員13人、大学教員1人、高校教諭2人）、看護師27.3%（6人）であった。

最小の意味のある用語は、63件が得られた（表）。

VI 考察

今回の調査結果は、ガニエの9教授事象のうちの6項目とARCS動機づけ理論に整理された。このことからIDについての基礎知識はなくても、その構成要素が含まれると最高の授業と認識していることが推察された。最高の授業をするには、教師の豊かな人間性と話術力が求められ、内容の分かりやすさと教育方法の工夫が期待され、システムの思考に基づいてデザイン

する力の具備が必要であると考えられる。今後、最高の授業ができるように、看護教員の ID 力を高める必要性が示唆された。

表 ガニエの 9 教授事象と ARCS 動機づけ理論分析

ガニエの 9 教授事象 17 件	学習者の注意を喚起する	0
	授業の目標を知らせる	3
	前提条件を思い出させる	0
	新しい事項を提示する	0
	学習の指針を与える	2
	練習の機会をつくる	4
	フィードバックを与える	4
	学習の成果を評価する	2
	保持と転移を高める	2
ARCS 動機づけ理論 17 件	注意：面白そう	4
	関連性：やりがいがありそう	3
	自信：やればできそう	2
	満足感：やっていてよかった	8
講師 12 件	人間性	8
	話術	4
内容・方法 16 件	内容：わかりやすさ	9
	構成・教育方法など	10
その他 1 件	最良・最悪の評価は難しい	1

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト (PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.
- 2) 森田敏子、松永保子他：良い授業・研修をするために重要と認識していること、第 38 回日本看護学会—看護教育、2006.

【報告 3】

看護教員のインストラクショナルデザインの開発に関する研究

ーインストラクショナルデザイン・ワークショップ参加者の ID への理解ー

I はじめに

近年、教育の体系的なアプローチに関する方法論としてインストラクショナルデザイン (Instructional Design、以下、ID) が注目されている¹⁾。ID は、授業の効果と効率、魅力を高めるための方法論である。ID は、授業案の作成のみならず、授業の構成をデザインする力であり、その構成要素には、授業の入口 (学習者の前提条件) と出口 (学習者の到達目標) の明確化などが含まれている¹⁾。したがって、看護教員の教育力を高めるために ID を活用することは有意義なことと考え、看護教員の ID を高める研究に取り組んだ。今回は、ワークショップ (以下、WS) を開催し、WS に参加した人の反応から ID の理解について検討した。

II 研究目的

看護教員あるいは現任教育の研修を企画する立場にある看護師が、過去に受けた授業や研修の中から最高と思う授業を例題にして、WS 後の ID の理解を明らかにした。

III 研究方法

対象：ID に関する WS に参加した看護教員と現任教育の研修を企画する看護師。

調査時期：平成 19 年 3 月 10 日。

方法：ID の専門家の助言により研究者が作成した自記式調査用紙を WS 後に参加者に配布し、投書箱に入れる方法で回収した。

調査項目は、(1) ID について、「授業や研修が面白くなる、授業や研修が魅力的になる、目標分析が必要である」など 17 項目と、(2) 「ID について感じたこと」である。

分析：(1) については「そう思う」「違うと思う」「どちらとも言えない」「分からない」の 4 件法で集計し、(2) の記述内容は最小の意味のある用語でカテゴリー化した。カテゴリー化は、研究者間で討議を重ね、一定期間をおいて一致を確認し、信頼性を確保した。

WS：平成 19 年 3 月 10 日に実施した。講師およびインストラクターは ID の専門家が担い、講義と演習で構成された。講義内容は、ID の基礎知識 (ADDIE モデル、ガニエの 9 教授事象、ARCS 動機づけ理論など) である。

IV 倫理的配慮

研究対象者に研究目的、研究は自由意思で参加できること、参加しなくても WS において不利益を被ることはないこと、いつでも辞退できること、得られたデータは研究目的にのみを使用すること、プライバシーおよび個人情報保護は保護され、匿名性を保障し、個人または教育機関あるいは施設が特定されないよう配慮することを説明し、同意を得た。

V 結果

回収率は 76.7% (23 人) であり、職種としては看護教員 69.6% (16 人中、専門学校教員 13 人、大学教員 1 人、高校教諭 2 人)、看護師 30.4% (7 人) であった。

(1) ID についての集計結果は、表 1 の通りである。

(2) についての記述内容は、「内容の理解・興味」「目標の明確化」「今後の活用」「重要・価値」「未消化」の 5 つにカテゴリー化できた。

表 1 集計結果

(N=23、単位=人)

項 目	①	②	③	④
授業や研修が面白くなる	22	0	1	0
授業や研修の目標分析が必要	21	1	0	1
教育の質が高まる	21	0	1	0
授業や研修が魅力的になる	21	0	1	1
双方向授業が可能となる	20	0	2	1
ID と略される	20	1	1	1
学習者の復習が可能になる	19	0	2	2
教育が個性的になる	18	0	3	0
学習者参加型の授業になる	17	5	0	1
教育が均一になる	15	2	5	1
教材の見た目が美しくなる	14	1	4	4
e ラーニングで使うものだ	8	2	4	9
学習者もパソコン環境整備が必要	6	6	7	4
使うのは難しい	5	11	7	0
使うのにパソコンが必要だ	4	12	5	1
CAI と同じである	2	7	2	11
ID 使うのは面倒だ	0	11	11	1

① そう思う、 ②違うと思う、 ③どちらとも言えない、 ④わからない

VI 考察

ID について、「授業が面白くなる」と回答した者が最も多く、以下は「目標分析が必要」「教育の質が高まる」「授業が魅力的になる」「双方向授業が可能となる」の順であったことから、WS により ID の理解が深まったと推察される。一方で、2～3 割の回答ではあるが、「e ラーニングで使うものだ」「パソコン環境整備が必要」「使うのは難しい」というものあり、これは ID の十分な理解には至っていないことを示すものと思われる。

授業を魅力で効果的なものとするために、今後も看護教員の ID 力を高めていく必要性が示唆されたと考える。

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.

【報告 4】

インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 —最高と思う授業に含まれるガニエの 9 教授事象と ARCS 動機づけ理論—

I 目的

看護教員あるいは研修を企画する看護師が最高と思う授業や研修にインストラクショナルデザイン¹⁾（以下、ID）の視点が含まれているかを明らかにする。

II 方法

対象：ID ワークショップ（以下、WS）参加者。

方法：自記式調査用紙を ID・WS 参加者に郵送して回答を求め、WS 当日に投書箱に入れる方法で回収。調査項目は、「これまで受けた授業・研修が最高と思う理由」である。

WS：内容は、ID の基礎知識（ADDIE モデル、ガニエの 9 教授事象、ARCS 動機づけ理論）と演習である。

分析：記述内容を最小の意味のある用語で分類し、ガニエ 9 教授事象と ARCS 動機づけ理論、講師の人間性等でカテゴリー化した。分析にあたっては研究者間で討議を重ね、一定期間をおいて一致を確認し、信頼性を確保した。

III 倫理的配慮

研究目的と、回答は自由、協力しなくても不利益はない、データは研究に使用、個人や施設が特定されない等を文書と口頭で説明し協力を得た。

IV 結果

回収率 93.3% [看護教員 6 人 (21.4%)、看護師 20 人 (78.6%)]。最小の意味のある用語は 65 件が得られた。ガニエの 9 教授事象のうち「前提条件を思いださせる」以外はすべてが含まれ、ARCS 動機づけ理論の 4 項目もすべて含まれていた。また、講師の人間性や話術、内容と構成、方法が含まれていた。

V 考察

今回の結果には、ガニエの 9 教授事象のうち 8 項目と ARCS 動機づけ理論、講師の人間性などが含まれていたことから、ID の基礎知識はなくても、その構成要素が含まれると最高の授業と認識できることが推察された。最高の授業をするには、講師の豊かな人間性と話術力が求められ、内容の分かりやすさと教育方法の工夫、システム的な思考に基づいてデザインする力、つまり ID 力が必要であることが示唆された。

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.

【報告 5】

インストラクショナルデザインの開発に関する研究 —インストラクショナルデザイン・ワークショップ参加者の ID の認識—

I 目的

最高と思う授業や研修を例題にワークショップ（以下、WS）後のインストラクショナルデザイン¹⁾（以下、ID）の認識を明らかにする。

II 方法

対象：IDWS 参加者。

方法：自記式調査用紙を WS 後に配布し投書箱にて回収。調査項目は、(1) ID について、授業や研修が面白くなる、魅力的になる、目標分析が必要等 17 項目と、(2) ID の認識である。

分析：(1) は、そう思う、違うと思う、どちらとも言えない、分からない、の 4 件法で集計。(2) は、とてもそう思う、やや思う、思う、あまり思わない、思わない、の 5 件法で集計。

WS：平成 20 年 2 月実施、内容は ID の基礎知識（ADDIE モデル、ガニエの 9 教授事象、ARCS 動機づけ理論など）と演習。

III 倫理的配慮

研究目的と、回答は自由、協力しなくても不利益はない。データは研究に使用、個人や施設は特定されない等を文書と口頭で説明し協力を得た。

IV 結果

回収率 86.7% [看護教員 6 人 (23.1%)、看護師 20 人 (76.9%)]。

(1) ID について、そう思う割合が多かったのは、「ID と略される (92.3%)」「教育の質が高まる (88.5%)」「授業や研修が面白くなる (88.5%)」「授業や研修の目標分析が必要 (88.5%)」「授業や研修が魅力的になる (84.6%)」等であり、少なかったのは、「学生にもパソコンが必要 (7.7%)」「ID を使うのは面倒 (0%)」「CAI と同じ (0%)」であった。

(2) は、「とてもそう思う、やや思う、思う」としたのは、「分かった (92.4%)」「興味を持てる (69.2%)」「面白い (65.4%)」「難しい (80.7%)」「勉強したい (92.4%)」「使いたい (96.1%)」「研究したい (57.7%)」であった。

V 考察

ID については教育の質が高まり、授業や研修が面白く魅力的になり、目標分析が必要とし、ID の理解が深まったと推察される。ID について分かった、使いたい、勉強したいが難しいとしており、授業を魅力的で効果的にするために、看護教員と看護師の ID 力を高めていく必要性が示唆された。

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.

【報告 6】

インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 —良い授業・研修をするための認識；ワークショップ前後の変化—

I はじめに

今日、看護実践力の向上に向けて、看護教員の教育力や卒後教育の研修を企画する看護師の教育力が問われている。教育力を高める一方法としてインストラクショナルデザイン（以下、ID）がある。IDは、授業案や研修案の作成のみならず、授業や研修の全体をデザインする力であり、構成要素には、授業の入口（学習者の前提条件）と出口（学習者の到達目標）¹⁾などが含まれる。

我々は看護教員や看護師のIDに関する研究に取り組み、質のよい授業や研修を行うための重要な視点に着目して検討した。

II 研究目的

看護教員あるいは卒後教育の研修を企画する立場にある看護師が、よい授業・よい研修をするために認識していることを明確にする。

III 研究方法

1. 対象：IDに関するワークショップに参加した看護教員と卒後教育の研修を企画する看護師。
2. 期間：平成20年2月1日～2月24日。
3. 方法：IDに関するワークショップ（講師はIDの専門家）を開催し、自記式調査用紙を用いてワークショップ前後の認識を調査した。事前調査はワークショップ参加者に郵送し、事後調査はワークショップ後に配布し、事前・事後調査とも投書箱に入れる方法で回収した。調査項目は、「よい授業や研修をするために重要なことは何か」である。
4. 分析：記述された内容を最小の意味のある用語で分類し、カテゴリー化した。カテゴリー化においては、研究者間で討議を重ね、一定期間をおいて一致を確認し、信頼性を確保した。

IV 倫理的配慮

事前調査は、ワークショップ参加予定者に研究目的と方法を説明した依頼文書を送付し、事後調査は、文書と口頭にて協力を求めた。研究は自由意思で参加できること、参加しなくてもワークショップで不利益を被ることはないこと、いつでも辞退できること、得られたデータは研究目的のみに使用すること、プライバシーおよび個人情報の保護、匿名性を保障し、個人または教育機関あるいは施設が特定されないように配慮することを説明し、同意を得た。

V 結果

事前調査は 28 人 (93.3%)、事後調査は 26 人 (86.7%) から協力が得られた。事前調査は看護師 22 人 (78.6%)、専門学校教員 6 人 (21.4%)、事後調査は看護師 20 人 (76.9%)、専門学校教員 6 人 (23.1%) であった。

「よい授業をするために重要なことは何か」について、事前調査では 178 件、事後調査では 131 件の用語が抽出され、9 カテゴリーが構成された。

事前調査は、「講師 (人間的魅力と話術、経験) 30.3%」、「内容 (構造化と理解) 28.7%」、「方法 (教える技術と教材) 18.5%」、「計画性 (準備性と時間配分) 7.9%」、「目標の明確化 6.2%」、「学習者の理解 3.4%」、「学習環境 1.7%」、「評価 1.7%」、「学習者の意欲 1.7%」であった。

事後調査では、「方法 (教える技術と教材) 25.2%」、「内容 (構造化と理解) 21.4%」、「目標の明確化 19.8%」、「評価 15.3%」、「講師 (人間的魅力と話術、経験) 9.2%」、「計画性 (準備性と時間配分) 1.5%」、「学習者の理解 0.8%」、「学習環境 0.8%」、「学習者の意欲 0.8%」であった。

VI 考察

ID は「研修の効果と効率と魅力を高めるためのシステムのなアプローチに関する方法論である。」¹⁾と定義されている。ワークショップ前に、よい授業をするために重要であると認識していたことは、講師の人間的魅力と話術、経験であり、教育をデザインするシステムの思考が重要であるという認識は推察できなかった。

ワークショップ後は、講師の人間的魅力と話術、経験を大切にしながらも、方法と内容とともに、目標の明確化と評価を重視しており、授業の出口 (目標と評価) に意識が向いてきたことが推察された。しかし、まだ ID の基礎が理解できてきている段階であり、ID の視点から授業を系統的に構築するためには、今後も、講師の ID 力を高め、開発していく必要があることが示唆された。

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト (PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.

【報告 7】

インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 ーワークショップでインストラクショナルデザインを学ぶ目的の検討ー

I はじめに

近年、教育のシステムのなアプローチに関する方法論としてインストラクショナルデザイン（Instructional Design、以下、ID）が注目されている¹⁾。IDは、研修や授業の効果と効率、魅力を高めるための方法論である。IDは、研修案や授業案の作成のみならず、研修や授業の構成をデザインする力であり、その構成要素には、研修や授業の入口（学習者の前提条件）と出口（学習者の到達目標）の明確化などが含まれている¹⁾。我々は、看護師や教員が指導力および教育力を高めるためにIDを活用することは有意義なことと考え、IDを高める研究に取り組んでいる。

今回、ワークショップ（以下、WS）を開催し、参加者の参加目的からIDについて検討した。

II 研究目的

現任教育の研修を企画する立場にある看護師または看護教員が、WSでIDを学ぶ目的を明らかにした。

III 研究方法

対象：IDに関するWSに参加した現任教育の研修を企画する看護師と看護教員。

WS実施・調査時期：平成20年2月23日。

方法：IDの専門家の助言により研究者が作成した自記式調査用紙をWS前後に参加者へ配布し、投書箱に投函する方法で回収した。

調査内容：表に記載してある12項目。

分析：12項目について、5：「とてもそう思う」、4：「やや思う」、3：「思う」、2：「あまり思わない」、1：「思わない」の5段階で求めた回答を、WS前後で比較した。

WS：講師はIDの専門家である。講義内容は、IDの基礎知識（ADDIEモデル、ガニエの9教授事象、ARCS動機づけ理論など）等である。その後、演習として参加者が提出した研修案をIDの視点から検討し、問題点や改善点を見いだした。

IV 倫理的配慮

研究対象者に研究目的、研究は自由意思で参加できること、参加しなくてもWSにおいて不利益を被ることはないこと、いつでも辞退できること、得られたデータは研究目的にのみに使用すること、プライバシーおよび個人情報は保護され、匿名性を保障し、

個人または教育機関あるいは施設が特定されないよう配慮することを説明し、同意を得た。

V 結果

回収数（率）は、WS前 28 人（93.3%）、WS後 26 人（86.7%）であった。回答者の職種は、WS前、看護師 22 人（78.6%）、専門学校教員 6 人（21.4%）、WS後、看護師 20 人（76.9%）、専門学校教員 6 人（23.1%）であった。

表に示したのは、「とてもそう思う」と「やや思う」を合わせたWS前後の各項目の集計結果である。

VI 考察

WSでIDを学ぶ目的は、WS前では、「より魅力的な研修や授業をしたい」「良い研修や授業をするために悩む」「わかりやすい研修や授業をしたい」「シラバスや研修計画を充実させたい」ということであり、WS後でも、「より魅力的な研修や授業をしたい」「わかりやすい研修や授業をしたい」「良い研修や授業をするために悩む」「シラバスや研修計画を充実させたい」ということであり、WS前と同様であった。しかし、WS後では、「学習者参加型の研修や授業をしたい」「漠然とためになりそう」「IDを活かしてシラバスや研修計画をつくりたい」などが高くなったことから、WSに参加したことによりIDへの理解が深まったと思われる。

研修や授業を魅力的で効果的なものにするために、研修を企画する看護師や看護教員のID力を高めていく必要性が示唆されたと考える。

文献

- 1) 鈴木克明：eラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDFファイル)、メディア教育開発センター、2003.

表 集計結果

(単位＝%)

項 目		前	後
1	漠然とためになりそう	53.6	69.2
2	ID という言葉に興味がある	50.0	57.7
3	ID が何かを知りたい	77.6	65.4
4	ID の能力を高めたい	60.7	57.7
5	シラバスや研修計画を作る必要性から	22.8	26.9
6	シラバスや研修計画を充実させたい	84.7	80.7
7	ID を活かしてシラバスや研修計画をつくりたい	64.3	65.4
8	より魅力的な研修や授業をしたい	89.3	88.4
9	わかりやすい研修や授業をしたい	85.7	84.6
10	学生や研修生を受け入れる人が予習や復習をするようになる	57.2	50.0
11	学習者参加型の研修や授業をしたい	64.3	76.9
12	良い研修や授業をするために悩む	85.8	80.7

【報告 8】

インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 —ID 理論の理解を高めるインストラクショナルデザイン・ワークショップの効果—

I 目的

近年、インストラクショナルデザイン（Instructional Design, 以下、ID）¹⁾が注目されている。ID は、研修や授業の効果と効率、魅力を高めるシステム的な方法論である。我々は、看護教員や研修を企画する看護師が ID 理論を理解することは意義があると考え、ID に関するワークショップ（以下、WS）を開催し、WS は ID 理論の理解に効果があるのかを検討した。

II 研究方法

対象：WS に参加した現任教育の研修を企画する看護師と看護教員。

方法：WS（講師は ID の専門家）を平成 20 年 2 月に開催した。参加者に自記式調査用紙を WS 前に郵送し、また、WS 終了後にも配布し、両方とも投書箱に投函してもらう方法で回収した。

調査項目は ID 専門家のスーパーバイズを受け、ID の基礎理論【ADDIE モデル 2 項目、ガニエの 9 教授事象（以下、教授事象など）9 項目、ARCS 動機づけ理論（以下、動機理論）12 項目、認知的徒弟制度理論（以下、認知理論）4 項目、教育観 3 項目】30 項目で構成されている。

分析：回答を「とてもそう思う」：5 点、「やや思う」：4 点、「思う」：3 点、「あまり思わない」：2 点、「思わない」：1 点として集計し、WS の前後で比較検討した。

III 倫理的配慮

調査対象者に文書と口頭で研究目的と自由意思参加、協力せずとも WS で不利益はない、いつでも辞退が可能、データは研究目的に使用、個人または所属機関が特定されないことを説明し同意を得た。

IV 結果

回収率は、前 27 人（90.0%）、後 26 人（86.7%）であった。職種は、WS 前が看護師 77.7%（21 人）、看護教員 22.2%（6 人）、WS 後が看護師 20 人（76.9%）、専門学校教員 6 人（23.1%）であった。WS 前後の調査対象者は、同一グループからの協力者である。

WS 前後でポイント差（0.5 ポイント以上）が大きかったのは、教育観の「意図的教育観にもとづく：教える行為が成功しているかどうかを重視する」、「意図的教育観と成功的教育観では、成功的教育観が強い」、認知理論の「フェイディングをこころがける」、

ADDIEモデルの「前提条件を思い出させる」、動機理論の「自信：学生・受講者に自分でコントロールさせる」などであった。

また、次にポイント差（0.5ポイント未満）が大きかったのは、ガニエの9教授事象の「フィードバックを与える」「学習の成果を評価する」、認知理論の「コーチングを心がけている」、動機理論の「目標に向かわせる」認知理論の「スキャンフォルディングを心がける」などであった。

V 考察

WS 前後でポイント差が大きかった項目から、WS は ID 理論の理解に効果的であったと推察される。しかし、1 日の WS の学習では、十分な理解に至るのは難しい。今後、授業や研修を魅力で効果的なものとするために、ID 力を高める工夫が必要であることが示唆された。

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.

【報告 9】

インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 —ID ワークショップ参加者のシラバスについての認識—

I 目的

近年、インストラクショナルデザイン (Instructional Design) (以下, ID) ¹⁾ が注目されている。ID は、研修や授業の効果と効率、魅力を高めるシステム的な方法論である。我々は、看護教員や研修を企画する看護師が ID 理論を理解することは意義があると考え、ID に関するワークショップ (以下, WS) を開催した。研究目的は、WS 参加者のシラバスに関する認識を明らかにすることである。

II 研究方法

対象：WS に参加した現任教育の研修を企画する看護師と看護教員。

方法：WS (講師は ID 専門家) を平成 20 年 2 月に開催した。自記式調査用紙を WS 前に郵送、WS 終了後に配布し、投書箱に入れる方法で回収した。調査項目はシラバス作成について重要なことである。

分析：意味のある用語で整理し、カテゴリー化した。

III 倫理的配慮

対象者に文書と口頭で研究目的と自由意思参加、協力せずとも WS で不利益なし、いつでも辞退可、データは研究目的に使用、個人または教育機関が特定されないよう配慮を説明して同意を得た。

IV 結果

回収率は、前 27 人 (90.0%)、後 26 人 (86.7%) であった。職種は、看護師 77.7% (21 人)、看護教員 22.2% (6 人) であった。

WS 前は 79 件、WS 後は 93 件の用語が抽出された。カテゴライズすると、WS 前は①教育内容に関すること、②目標に関すること、③構造化・構成力に関すること、④講師に関すること、⑤教え方に関すること、⑥学生への明示に関すること、⑦評価に関すること、⑧理念に関すること、⑨学生の理解に関すること、⑩動機づけに関すること、の 10 カテゴリーに整理された。WS 後は、これに「ID 理論に関すること」が加わった (表 1)。

V 考察

シラバス作成については WS 参加前から、教育内容の理解、目標の明確化、教育内容の構造化、講師の話術、教え方、学生への明示、評価、教育理念、学生の理解と動機づ

けなど重要な要素が網羅されていた。WS 後には、ID 理論の要素が加わり、シラバスの充実に向けての認識が深まったと推察される。シラバスは教育計画を表現する重要なものであることから、より一層の改善が求められる。今後、授業や研修を魅力で効果的なものとするために、ID 理論の理解を深めるならば、充実したシラバスが作成できるものと考えられ、ID 力を高める意義が示唆された。

文献

- 1) 鈴木克明：e ラーニング・ファンダメンタルテキスト(PDF ファイル)、メディア教育開発センター、2003.

表 1 シラバス作成で重要なこと

カテゴリー	WS 前	WS 後
教育内容に関する こと	教育内容の理解⑦ 専門知識⑤、 教育内容の明確化④ 国家試験出題基準の把握	教育内容の理解⑪ 教育内容の精選 関連する知識③ 専門分野の知識③ 1 度の多くの教育内容を盛り込まない
目標に関すること	目的の明確化⑤ 科目目標の設定の明確化⑦	教育目的 育てたい学生像 教育目標の明確化⑥
構造化・構成力に 関すること	教育内容の構造化③ 立案能力 計画性：いつ・どこまでに・だれに 結果は効果の確認、カリキュラム構造 デザイン化 企画・計画力・構成力②	目的・目標・評価・内容の整合性 構造化、構成力② 学習の順序生 全体を見通して計画できる能力 他教科との関連性の理解 コマ割りバランス 構造化と系列化
講師に関すること	作文能力④、専門的スキル（技能）、 適切な教材選択、興味のもてる文章力、 講義（単元）の全体のイメージづくり 看護師経験④、専門分野の臨床経験	作文能力④ 経験③ 専門技術② 今必要とすることを把握する能力 教えたい教師の意図、表現力 教材の選び方 見た目の魅力
教え方に関するこ と	わかりやすさ、話術、時間配分② 具体案 指導の順序の具体化 デモンストレーションと時間調整、 教育方法② 手技のわかりやすい図案	教育方法
学生への明示に関 すること	教育内容の明示、方法の明示、 学習評価方法の明示 学習目標の明示②、参考文献の明示、 全体的な計画の明示	目的の提示、目標の提示、内容の提示、 評価の明記、参考文献の提示
評価に関すること	目標に照らし合わせた評価	教育評価の明確さ⑤

理念に関すること	学校の教育理念	
学生の理解に関すること	学生の理解③ 学生のレディネス、 対象者が必要としていること 学習者の立場に立つこと 受講者の真意を理解できる	対象の準備状態② 学生のレディネス
動機づけに関すること	学生の動機づけ、	動機づけにつながる表現
I D 理論に関すること		I D の活用 認知的徒弟制 対象者の条件、前提の理解 ARCS 動機づけモデル 出口と入り口を定める② 目標は一歩手前まで

【報告 10】

インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究 ——良い授業・研修をするための認識；ワークショップ前後の変化——

key word：インストラクショナルデザイン，看護教育，看護教員，授業，研修

I. はじめに

我が国の急速な少子高齢社会の進展や情報科学技術の発達、医療技術の進歩など看護をめぐる環境の変化はめまぐるしく、国民の医療の質に関する意識はますます向上し、強い倫理観に基づく質の高い看護実践が求められている。質の高い看護実践をしていくためには看護教育の充実が不可欠であり、看護基礎教育や卒後研修の在り方が問われている。この課題については種々議論され、「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」¹⁾、「看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会」²⁾、「看護基礎教育の充実に関する検討会」³⁾ など、様々な報告書が出されている。

また、看護職の看護実践能力の向上に向けて、看護教員の教育力や卒後教育の研修を企画する看護師の教育力が問われ、看護教育力がなぜ問われるのかについても論じられ⁴⁾、教育力としてのプレゼンテーション⁵⁾ などについても報告されたりしている。

このような中、われわれは、教育力を高める一方法であるインストラクショナルデザイン（以下、ID）に着目して検討している。ID は、授業案や研修案の作成のみならず、授業や研修の全体をデザインする力であり、その構成要素には、授業の入口（学習者の前提条件）と出口（学習者の到達目標）などが含まれ、授業を効率的・効果的にするための方法論⁶⁾であると言われているからである。

ID の研究は、ロバート・ガニエ、レスリー・ブリッグス、ロバート・グレイザーら教育工学関連の報告⁷⁾がある。我が国の看護教育における ID については、森田らの研究^{8,9)}があるが、他には見あたらないことから、看護教員や看護師が行う授業や研修について、ID の観点から検討を行った。

II. 研究目的

看護教員あるいは卒後教育の研修を企画する立場にある看護師が、よい授業・よい研修をするために認識していることについて明確にし、ID との関連から検討する。

III. 研究方法

1. 対象：ID に関するワークショップに参加した看護教員と卒後教育の研修を企画する看護師。

2. 期間：平成20年2月1日～2月24日。

3. 方法：ID に関するワークショップ（講師は ID の専門家）を開催し、自記式調査用紙を用いてワークショップ前後の ID についての認識を調査した。事前調査用紙はワークショップ参加者に事前に郵送し、事後調査用紙はワークショップ後に配布し、事前・事後調査の回答をともに投書箱に入れる方法で回収した。

4. 調査項目：「よい授業や研修をするために重要なことは何か」であった。

5. 分析：記述された内容を最小の意味のある用語でコード化した。コード化したデータを内容別に類型化し、サブカテゴリーとし、更に抽象度の高いカテゴリーとなるように修正を繰り返して検討してカテゴリーを生成した。カテゴリー生成においては、研究者間で討議を重ね、一定期間をおいてから再度一致を確認し、信頼性を確保した。その後、カテゴリーで構成されたものに ID の視点が含まれているかを確認した。

6. ID に関するワークショップについて

ワークショップで講義した理論の内容は、【ID の3つの要素をマッチさせる技法】（図1）、【ID プロセス】（図2）、【ガニエの9教授事象】（図3）、【ARCS 動機づけモデル】（図4）¹⁰⁾などである。

7. 倫理的配慮

事前調査は、ワークショップ参加予定者に研究目的と方法を説明した依頼文書を送付し、事後調査は、口頭と文書にて協力を求めた。研究は自由意思で参加できること、参加しなくてもワークショップにおいて不利益を被ることはないこと、いつでも辞退できること、得られたデータは研究目的のみに使用すること、プライバシーおよび個人情報保護を行うこと、匿名性を保障し、個人または教育機関あるいは施設が特定されないように配慮することを説明し、同意を得た。

IV. 結 果

事前調査は28人（93.3%）、事後調査は26人（86.7%）から協力が得られた。事前調査は看護師22人（78.6%）、専門学校教員6人（21.4%）、事後調査は看護師20人（76.9%）、専門学校教員6人（23.1%）であった。

事前調査の結果、178件がコード化され、「講師」「教育内容」「教育方法」「教育目標」「学習者」「学習環境」「評価」の7つのカテゴリーが構成された（表1）。

ワークショップ後は131件がコード化され、「教育方法」「教

表1 良い授業・研修をするために重要なこと：ワークショップ前

カテゴリー	サブカテゴリー	件数
講師	講師の話術 講師の経験	54
教育内容	教育内容の理解	51
教育方法	教育方法 時間配分	47
教育目標	教育目標の設定	11
学習者	学習者の理解 学習者の意欲	9
学習環境	教室の環境 実習室環境	3
評価	評価	3

育内容と構造化」「学習目標」「評価」「講師」「学習者」の6つのカテゴリーが構成された（表2）。

V. 考 察

ワークショップ前は講師の話術と経験が最も多く、授業で最も重要と認識していたことは教師自身のことであった。次

表2 良い授業・研修をするために重要なこと：ワークショップ後

カテゴリー	サブカテゴリー	件数
教育方法	新しい事項の提示 学習指針の提示 教える技術 教材の有効利用	36
教育内容と構造化	教育内容の理解 教育内容の組み立て 教育内容の順序性 時間配分の設定	32
学習目標	学習目標の明確化 学習目標の提示	26
評価	適正な評価 事前テスト 学習成果の評価	20
講師	講師の話術 講師の経験	12
学習者	学習者の理解 学習者の動機づけ	3

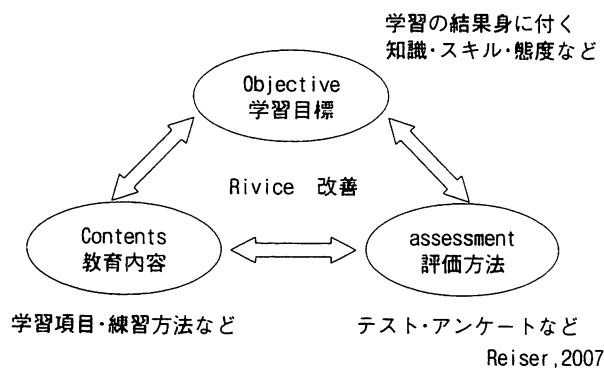


図1 ID：3つの要素をマッチさせる技法

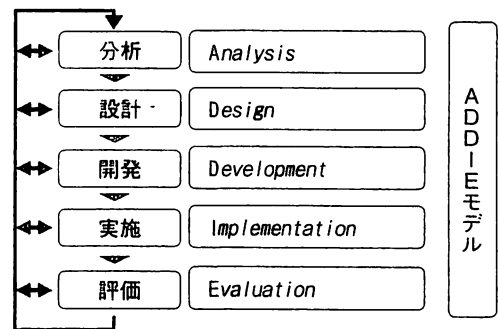


図2 インストラクショナルデザインプロセス

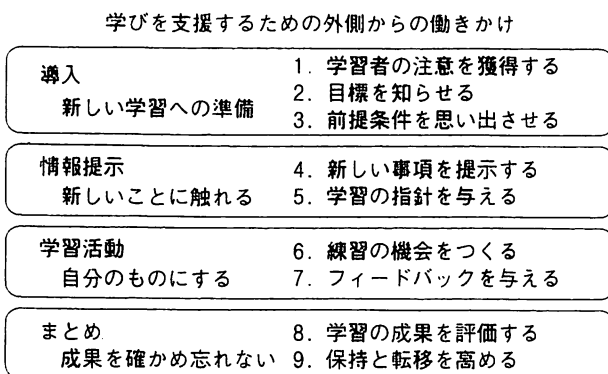


図3 ガニエの9教授象

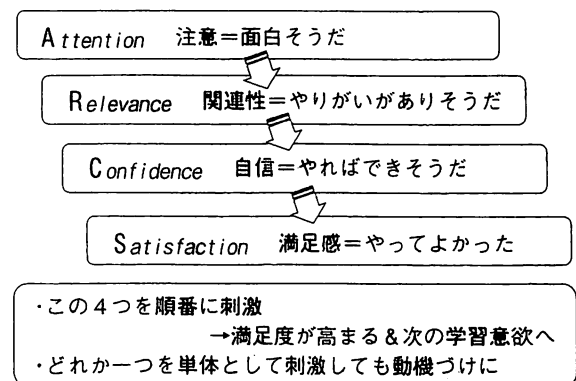


図4 ARCS 動機づけモデル

図1～4は、北村士朗：理論をもとにした看護教育デザイン研修「インストラクショナル・デザイン」ワークショップ資料2007、より引用修正。

に多かった記述は教育内容の理解であり、評価に関することが最も少なかったことから、教育をデザインするシステム的な思考が重要であるという認識は薄いと推察された。

ワークショップ後に件数が最も多かったのは教育方法であり、サブカテゴリーに〈新しい事項の提示〉〈学習指針の提示〉などガニエの9教授事象が表現され、ID理論を取り入れてきている。次に件数が多かった「教育内容と構造化」「学習目標」「評価」のサブカテゴリーに〈目標の明確化〉と〈事前テスト〉が表現されるなど、【IDの3つの要素をマッチさせる技法】の考え方や、ID理論である“授業の出口（目標と評価）”に意識が向いてきたことが推察された。また、講師の話術や教える技術など教育する側のプレゼンテーション能力も重視していることが推察された。すなわち、ワークショップ後は、【IDプロセスADDIEモデル】の分析と設計の意識が働き、【ガニエの9教授事象】の「導入」における“学習目標を知らせる”、「まとめ」の“学習の成果を評価する”という意識が働いてきたことが窺えた。

しかし、ワークショップに一度参加しただけでは、IDの基礎理論を理解し始める段階でしかなく、IDの視点から授業や研修を系統的に構築するという考え方には至っていない。

IDは、「研修を効果的・効率的・魅力的なものにするための体系的なアプローチに関する方法論である。」¹¹⁾と定義されている。効果的とは、目標を達成できること、効率的とは、目標達成までの負荷が少ないこと、魅力的とは、また学びたくなることである。今回の結果からは、IDの定義である授業や研修の効果や効率化、魅力的なものにすることにまで言及はできなかった。したがって、今後実施するワークショップの内容についても検討を要する課題が明らかになったと考える。

教員に必要とされる第一の能力（機能）は教育能力（機能）である¹²⁾。今後は、看護職者の看護実践能力を高める教育を行うためのひとつの方法論として、ID理論を看護教育や研修に取り入れ、看護教員や研修を企画する看護師のID力を高めていくことが必要になると考える。また、【ARCS動機づけモデル】を活用するだけでも、看護実践能力を高める教育や研修ができることから、これらの理論の理解による普及と活用は課題であると考えられる。

VI. 結 論

1. よい授業や研修をするために重要なことは、ワーク

ショップ前は、講師の話術や経験であった。ワークショップ後は、方法、内容と構造化、学習目標、評価を重視し、IDを取り入れた授業を系統的に思考することの大切さを認識し始めたと推察された。

2. 教育や研修を効果的、効率的、魅力的なものにするために、IDの理解の普及と活用がこれからの課題であると考えられた。

VII. 研究の限界

本研究は、IDに関するワークショップ参加者を対象に検討したもので、例数が少ない。今後はデータ数を増やして検討する必要がある。

（本研究は、平成19年度文部科学省科学研究費（基盤研究(C)18592317）の助成による。）

引用文献

- 1) 厚生労働省：新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書、2004。
- 2) 厚生労働省：看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書、2006。
- 3) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に係る検討会報告書、2007。
- 4) 渡部尚子：今、なぜ看護教育力が問われるのか、日本看護学教育学会誌、15(2)、p. 59-62、2005。
- 5) 大島武：教育力としてのプレゼンテーション、日本看護学教育学会誌、15(2)、p. 63-69、2005。
- 6) 鈴木克明：eラーニング・ファンダメンタルテキスト（PDFファイル）、メディア教育開発センター、2003。
- 7) ウォルター・ディック、他、角行之監訳：はじめてのインストラクショナルデザイン、ピアソン・エデュケーション、2004。
- 8) 森田敏子・松永保子・岩本テルヨ：インストラクショナルデザイン力の開発に関する研究—最高と思う授業に含まれるガニエの9教授事象とARCS動機づけ理論—、第38回日本看護学教育学会、p. 266、2008。
- 9) 松永保子・森田敏子・岩本テルヨ：インストラクショナルデザインの開発に関する研究—インストラクショナルデザイン・ワークショップ参加者のIDの認識—、第38回日本看護学教育学会、p. 266、2008。
- 10) 北村士朗：理論をもとにした看護教育デザイン研修“インストラクショナル・デザイン研修”ワークショップ資料、2007。
- 11) 前掲書6)。
- 12) 神津忠彦：教育機関におけるファカルティー・ディベロップメントの現状と課題、日本看護学教育学会誌、15(2)、p. 71-77、2005。

X I . シラバスの改善例

授業科目名	基礎看護学方法論	単元名	安全を守る技術	担当者	専任教員 A
授業形態	講義・演習				
授業時期	1 年次 前期				
単位・時間数	0.5 単位 15 時間				
授業のねらい	医療における安全の意義を理解し、安全を守る技術の一つである感染防止の基本的知識と技術を習得することをねらいとする。				
テキスト	藤崎 郁：基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ，医学書院				
参考文献	竹尾恵子：看護技術プラクティス，学研				
授業内容 スケジュール					
回	時間	授業内容			方法
1	2	1. 看護における安全 2. 事故防止			講義
2	2	1. 感染防止の意義 2. 感染の成り立ち			講義
3	2	1. スタンダードプリコーション			講義
4	2	1. 感染経路別防止策 2. 洗浄・消毒・滅菌			講義
5	2	1. 滅菌用品の取り扱い（無菌操作） 2. ガウンテクニック			講義
6	2	1. 感染予防の実際			演習
7	2	技術テスト（感染予防）			技術テスト
8	1	テスト			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
成績評価の方法	ペーパーテスト 50 点、技術テスト 40 点、レポート 10 点 但し、技術テストに合格しない場合は合格するまで再試験を行う				

ガニエの9教授事象を用いた展開

赤字で示したのがセミナー学習の成果として改善したこと

ガニエの9教授事象を用いた展開 ①

科目名 基礎看護学方法論 安全を守る技術

単元	看護における安全、事故防止	
本時の目標	1. 看護における安全の意義を理解し、安全を守るための看護師の役割について理解する。 2. 起こりやすい事故とその防止のための具体的方法が理解できる。 1. 看護における安全の意義と安全を守るための看護師の役割について説明できる。 2. 起こりやすい事故とその防止のための具体的方法が説明できる。	
導入 新しい学習への準備を整える	1. 学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	病院は安全だろうか？ →安全ではないとすればそれはなぜだろう？ 安全だとすればそれはなぜだろう？
	2. 学習者に目標を知らせる 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	看護は対象の安全を最優先に考え行動しなければならない。 そのために必要な知識と方法を確認しよう。
	3. 前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出させる	環境調整の技術で学んだ環境における危険とはどのようなものがあったか？ <u>看護学概論で学んだナイチンゲールが生命力の消耗を最小にするように環境を整えるといった意義は何か？</u> <u>「病気の場合、皮膚の機能は多かれ少なかれ低下している。病人の身体を不滅なまま放置したり・・・、健康をもたらす自然の過程を妨げて患者に害を加えることになる。」</u> <u>「清浄な空気と水、周囲をとりまく清潔な環境と雰囲気—これこそ、「感染」に対する確かな安全装置である。」</u>
情報提示 新しいことにふれる	4. 新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	・ 看護師の法的責任：注意義務（結果予見義務、結果回避義務） ・ リスクマネジメントの意義（医療安全については3年次別科目で学習するのでここではその考え方のみ） ・ 起こりやすい事故とその防止策 ・ <u>安全を守る使命感と観察する力</u>
	5. 学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	・ <u>看護師の観察する眼は、患者のどこを見れば良いか？</u> ・ <u>患者の安全を守る看護師とはどのような人だろうか？</u> <u>必要な知識は？ 行うべき技術は？</u> <u>医療チームとして連携・協力することは？</u>

学習活動 自分のものにする	6. 練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	事故事例を提示し結果予見と結果回避について考える ・ <u>看護師の行動の何が足りなかったのだろうか？</u> ・ <u>安全を守る観点から、何を予測すべきだったろうか？</u> <u>安全を守る技術（車椅子のブレーキ、ベッドの柵など）を行って練習する</u>
	7. フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服する	・ 前項で出た意見をもとに考えられていること、不足している点を示す ・ <u>安全を守る技術として配慮すべき点を指摘する</u>
まとめ でき具合を確かめ忘れないようにする	8. 学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わう	本日学んだことのまとめ ・ <u>簡単なテストで知識を確認し、理解できていない知識は補足説明する。</u> ・ <u>安全を守る技術の幾つかを行わせ、できていることと、できていないことを指摘し、どのように行うべきであったかモデルを示す。</u>
	9. 保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにする	・ <u>一定期間をおいて、知識を確認する。</u> ・ <u>いて血期間をおいて、安全を守る技術を行わせる。</u> ・ <u>実習場面で安全を守る技術が行われて状況を分析させ、意識づけさせる。</u>

単元	感染防止の意義・感染の成り立ち	
本時の目標	1. 看護場面における感染防止の意義を <u>説明できる</u> 。 2. 感染の成り立ちを知ること感染を成立させない方略を <u>説明できる</u> 。	
導入 新しい学習への準備を整える	1. 学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	あなたはきれい？ →『きれい』とすればそれはなぜ？ 『きれいでない』とすればそれはなぜ？
	2. 学習者に目標を知らせる 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	私たちは『きれいでない』。故に感染をおこす原因となる。 そこで、私たち自身を守るために、私たちの周りにいる患者様を守るための知識を持とう。
	3. 前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出させる	小中高校で手洗いの重要性については学んだ。それはどのようなものだったか？
情報提示 新しいことにふれる	4. 新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	・ 院内感染はなぜ起こる ・ 感染の成り立ち ・ 感染から守るためにすべきこと
	5. 学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	・ 看護師の観察する眼は、患者のどこを見れば良いか？ ・ 看護師は感染を守るシステムのどこに着目するのか？
学習活動 自分のものにする	6. 練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	・ 院内感染事例を考えてみよう ・ 新型インフルエンザはなぜ怖いのか
	7. フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服する	前項で出た意見をもとに考えられていること、不足している点を示す
まとめ でき具合を確かめ忘れないようにする	8. 学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わう	本日学んだことのまとめ ・ <u>知識の確認</u> ・ <u>態度の確認(看護師としての倫理感性、看護師としての責任感、患者に対する信頼、看護の質を保証する看護師の役割)</u>
	9. 保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにする	・ <u>後続で学ぶ「安全に関する授業」の際に、基礎知識・技術・態度を確認する。</u>

単元	スタンダードプリコーション	
本時の目標	1. スタンダードプリコーションの考え方を理解し、その実践方法を理解する。 1. スタンダードプリコーションの考え方に <u>基づく</u> 実践方法が説明できる。	
導入 新しい学習への準備を整える	1. 学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	感染を予防する手当てはあるか？ →yes no どちらも正しい。その理由は？
	2. 学習者に目標を知らせる 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	感染を予防する手当て＝スタンダードプリコーション（標準予防策）
	3. 前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出させる	感染の成り立ちのなかで医療者が防ぐことができるものは？
情報提示 新しいことにふれる	4. 新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンダードプリコーションとは ・ 隔離予防策のためのガイドライン 2007 ・ 手指衛生 ・ 個人防護用具 など
	5. 学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>日常的な手を洗う習慣（活動）と衛生的手洗い法はどこが異なるのか？</u> ・ <u>衛生的手洗い法と手術室等で行われる手洗い法はどこが異なるのか？</u> ・ <u>看護師がスタンダードプリコーションしなかつたら、どうなるであろうか？</u>
学習活動 自分のものにする	6. 練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	手指衛生についてはこの時間のあと食事のときに実施する こんな場合は正しいか？（事例を提示し正誤の確認）
	7. フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服する	前項の事例をもとに原則の確認
まとめ でき具合を確かめ忘れないようにする	8. 学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わう	本日学んだことのまとめ 感染予防に対する手当て：yes no どちらも正しい。その理由は？ 確実に感染予防対策をすれば感染は防げる。 が、その方法に問題があれば感染は防げない。
	9. 保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにする	<u>後続で学習するすべての単元、技術項目において安全を意識させ、発問によって知識の確認をする。</u>

単元	感染経路別防止策／洗浄・消毒・滅菌	
本時の目標	1. 感染経路別防止策の考え方を理解する。 2. 洗浄・消毒・滅菌の違いとその方法について理解する。 1. 感染経路別防止策の考え方を <u>説明</u> できる。 2. 洗浄・消毒・滅菌の違いとその方法について <u>説明</u> できる。	
導入 新しい学習への準備を整える	1. 学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	あなたのそばで新型インフルエンザが発生！ 標準予防策だけで大丈夫？
	2. 学習者に目標を知らせる 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	経路別の感染防止策が必要。それについて理解しよう。 さらに病原微生物を除去するための方法は？
	3. 前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出させる	スタンダードプリコーションとは何だったか？
情報提示 新しいことにふれる	4. 新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染経路別防止策（空気感染・飛沫感染・接触感染） ・ 洗浄・消毒・滅菌の違いとその方法
	5. 学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>洗浄するのはどのような医療器具と状況か？</u> ・ <u>消毒するのはどのような医療器具とどのような看護技術に用いるのか？</u> ・ <u>滅菌するのはどのような医療器具とどのような看護技術、場面か？</u>
学習活動 自分のものにする	6. 練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	こんな場合は正しいか？（事例を提示し正誤の確認）
	7. フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服する	前項の事例をもとに原則の確認
まとめ でき具合を確かめ忘れないようにする	8. 学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わう	本日学んだことのまとめ 感染経路別防止策 洗浄消毒滅菌
	9. 保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにする	<u>後続で学習するすべての単元、技術項目において安全を意識させ、発問によって知識の確認をする。</u>

単元	滅菌用品の取り扱い（無菌操作）／ガウンテクニック	
本時の目標	1. 無菌操作の原則を理解する。 2. ガウンテクニックの目的と方法を理解する 1. 無菌操作の原則を説明できる。 2. ガウンテクニックの目的を説明できる。	
導入 新しい学習への準備を整える	1. 学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	ピンセット（鑷子）は何のために使うのか？
	2. 学習者に目標を知らせる 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	鑷子にも使い方の原則がある。まあこんな感じ～は通用しない。 正しい使い方を身に着けよう。 スタンダードプリコーションでの防護用具の一つであるガウンの使い方を理解しよう。
	3. 前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出させる	安全とは何か？ 無菌操作とは何か？ 清潔と見なす部分、不潔と考える部分は？
情報提示 新しいことにふれる	4. 新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	<ul style="list-style-type: none"> 滅菌物の管理方法 無菌操作 滅菌手袋の装着 ガウンテクニック
	5. 学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	<ul style="list-style-type: none"> セッシのどこを把持すれば、不潔と見なされるのか？ セッシをどの方向に向ければ、不潔と見なされるのか？ 手袋装着における右手と左手の協働作業は？ 無菌操作技術を守るための空間確保は？
学習活動 自分のものにする	6. 練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	次回演習をします。
	7. フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服する	原則の確認
まとめ でき具合を確かめ忘れないようにする	8. 学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わう	本日学んだことのまとめ 感染予防の方法には決まりがある。決まりを守れない人が一人でもいると全ては無駄になる。
	9. 保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにする	後続で学習するすべての単元、技術項目において安全を意識させ、発問によって知識の確認をする。

単元	感染予防の実際（演習）	
本時の目標	1. 手指衛生の方法を実践できる 2. 無菌操作（鉗子の取り扱い、滅菌手袋の装着）が根拠を持って実践できる 3. ガウンテクニックの実際が理解実践できる	
導入 新しい学習への準備を整える	1. 学習者の注意を喚起する 情報の受け入れ態勢を作る	理解したこととできることは違う。 身につけること。 今日行うことは技術テストがあります。
	2. 学習者に目標を知らせる 頭を活性化し、重要な情報に集中させる	安全を守る無菌操作の知識を活用した看護技術ができるようになる <u>ろう</u>
	3. 前提条件を思い出させる 今までに学んだ関連事項を思い出させる	これまでに学んだ手指衛生の方法 無菌操作の原則 滅菌手袋の装着方法 ガウンテクニックの目的と方法
情報提示 新しいことにふれる	4. 新しい事項を提示する 何を学ぶかを具体的に知らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の身体（頭・眼・心・手）を使って実際に行うこと</u> ・ <u>何のためにその技術を行うのか、目的を実現するために行うこと</u>
	5. 学習の指針を与える 意味のある形で頭にいれる	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>安全な作業域の確保は？</u> ・ <u>安全な物品の配置は？</u> ・ <u>無菌操作を確実に行う方法は？</u>
学習活動 自分のものにする	6. 練習の機会をつくる 頭から取り出す練習をする	演習
	7. フィードバックを与える 学習状況をつかみ、弱点を克服する	実施状況からの講評
まとめ でき具合を確かめ忘れないようにする	8. 学習の成果を評価する 成果を確かめ、学習結果を味わう	自己練習の課題を明確に示す
	9. 保持と転移を高める 長持ちさせ、応用がきくようにする	<u>後続で学習するすべての単元、技術項目において安全を意識させ、発問によって知識の確認をする。</u>

資料集

看護教員、看護職者のための

理論をもとにした看護教育デザイン研修

“インストラクショナル・デザイン” ワークショップ

まもなく、新学期です。新学期に向けた授業や研修の準備は一人で頭を痛めがちですが、ワークショップでワイワイ・ガヤガヤと楽しく準備できたらと思います。

そこで、「より良い授業や研修を行いたい」「どうすればもっと良い授業や研修ができるか知りたい」「シラバスは書いたものの、どう展開すれば良いか迷ってしまう」という方のために、このワークショップを企画しました。

このワークショップでは、H19年度に看護基礎教育または看護師の卒後研修を講師として担当する予定の皆さんに、既に考えておられるシラバス（案）、または研修計画（案）をもとに「授業案」を作成していただきます。

授業や研修の効果・効率・魅力を高めるための方法論であるインストラクショナル・デザイン（ID）の「アイディーの“ア”」から学びながら、実際にどのような授業（講義、実習、演習）をするか、学べたかどうかをどうやって確かめるのか、学習者への動機付けはどうするのか、といったことを考えていきます。

そして、このワークショップでは実際に使っていただく授業案を作っていきます。新年度に向けての授業準備・研修準備の一環としてご参加ください。

なお、実際にワークショップで授業案を作ることから、H19年度以降に看護基礎教育または看護師の卒後研修を担当される予定の方を対象としています。

授業担当の予定はないけれど、「将来、授業や研修をする可能性がある」「授業改善に興味がある」「インストラクショナル・デザインに興味がある」といった方も歓迎です。その場合、担当する可能性がある授業や研修のシラバスを仮想で作り、下記の事前準備に取り組んでいただきます。

事前準備としては、シラバス（案）のご提出と、資料を見ながら授業案のたたき台を作っていただきます。所要時間は1～2時間程度を想定しています。この事前準備も来年度の授業準備の一環として（授業準備を楽にするものとして）取り組んでいただけます。

事後課題は、実際の授業案とシラバスの改定案を作成していただきます（ワークショップの時間内に完成した場合には、それを見直して提出していただくだけでOKです）。

まもなく新学期！ 新学期に向けた授業や研修の準備をワークショップでワイワイ・ガヤガヤと楽しく準備しましょう！

＜テーマ＞ 理論をもとにした看護教育デザイン研修
 “インストラクショナル・デザイン” ワークショップ

＜日時・場所＞2007 年 3 月 10 日（土） 9：00～18：00 熊本大学医学部保健学科

＜研修の概要＞

効果的・効率的・魅力的な看護教育を、より合理的に（楽に）デザインすることを目指す研修です。理論を学ぶ講義と理論を使う作業を交互に行うワークショップ形式で、実際の授業案・研修案を作りながら学んでいきます。

＜このような人にお勧めします＞

- ・授業や研修の準備をしなくてはならない → 授業案や研修案の素案が出来ます
- ・授業や研修を改善したいけど糸口が見つからない → たぶん見つかります
- ・より良い教育をするための理論を学びたい → 看護教育に役立つ理論を学べます
- ・インストラクショナル・デザインとは何かを知りたい → 体験しながら学べます

＜講師プロフィール＞

北村 士朗 熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻 助教授
インストラクショナル・デザイナー、学習環境デザイナー、研修インストラクター。
東京海上日動や東京大学先端研で実務家教育の研究・実践に携わった後、現職。
「研修や授業をデザインできるインストラクター（講師）」の養成で定評がある。
この他にも、インストラクターをお招きする予定です。

＜主な内容＞

- ・シラバスの確認と補完「シラバスから授業案へ、研修案へ」
- ・学習目標と前提知識の明確化「出口と入口を明らかにする」
- ・学習モデルと授業法「あの手この手で学ばせる」
- ・動機付けのデザイン「ヤルキのカガク」

＜対象者＞看護教員または看護師、助産師、保健師

- ・看護教育または卒後研修を講師として担当する予定があり、本ワークショップで作成した授業案を実際に使うことができる人。（または将来、使う予定がある人）
- ・所定の事前課題・事後課題に取組み、ご提出いただける人。

（課題の想定所要時間：事前課題 1～2 時間程度、事後課題 1～3 時間程度）

事前課題 1 事前アンケートへの記入（貴方の過去の研修経験

事前課題 2 シラバスまたは研修の概要

<募集人員> 30名

<参加費> 無料

<留意事項>

1. 時間的制約からすべてのプログラムに参加できないが、インストラクショナル・デザインや授業案に興味・関心がある人は、最初の講義（1時間程度）だけの参加もできます。
2. 駐車場は、保健学科の駐車場を利用できますが、数に限りがありますので、最寄りの公共交通機関をご利用ください。
3. 研修後、会費制で軽い懇親会を予定しています。

<お問い合わせ>

〒862-0976 熊本市九品寺4丁目24-1

熊本大学医学部保健学科 看護学専攻 森田敏子

Tel 096-373-5461

<申し込み方法>

参加希望者は、下記のいずれかの方法で、2月末日までに申し込みください。

申し込みにあたっては、氏名、所属、住所、電話、職業（職位）、参加動機、担当予定講義（予定の研修）をお書き下さい。

・方法1. 電子メール morita@hs.kumamoto-u.ac.jp

・方法2. FAX 096-373-5519

なお、このワークショップは、科学研究費助成金（基盤研究（C））によって運営します。

看護教員・看護職者のための ～理論をもとにした看護教育デザイン研修～ インストラクショナル・デザインワークショップ

まもなく、新学期です。新学期に向けた授業や研修の準備は一人で頭を痛めがちですが、ワークショップでワイワイ・ガヤガヤと楽しく準備できたらと思います。

そこで、「より良い授業や研修を行いたい」「どうすればもっと楽しい授業や研修ができるか知りたい」「シラバスは書いたものの、授業でどう展開すれば良いのか迷ってしまう」という方のために、このワークショップを企画しました。

このワークショップでは平成19年度に看護基礎教育または看護師の卒後研修を担当する予定の皆さんに、すでに考えておられるシラバス（案）、または研修計画（案）をもとに「授業案」を作成していただきます。

授業や研修の効果・効率・魅力を高めるための方法論であるインストラクショナル・デザイン（ID）の「アイディーのア」から学びながら、実際にどのような授業（講義、演習、実習）をするか、きちんと学べたかどうかをどうやって確かめるか、学習者への動機付けはどのようにするのか、といったことを考えていきます。

そして、このワークショップでは実際に使っていただく授業案を作っていきます。新年度に向けての授業準備・研修準備の一環としてご参加ください。

なお、実際にワークショップで授業案を作ることから、平成19年度以降に看護基礎教育、または看護師の卒後研修を担当される予定の方を対象としています。

授業を担当する予定はないけれど、「将来、授業や研修をする可能性がある」「授業改善に興味がある」「インストラクショナル・デザイン」に興味があるといった方も歓迎です。その場合、ご自分が担当する可能性がある授業や研修のシラバスを仮想で作り、下記の事前準備に取り組んでいただきます。

事前準備として、シラバスのご提出と、資料を見ながら、授業案のたたき台を作っていただきます。所要時間は1～2時間程度を想定しています。この事前準備も来年度の授業準備の一環として（授業準備を楽にするものとして）取り組んでいただけます。

事後課題としては、実際の授業案とシラバスの改定案を作成していただきます（ワークショップの時間内に完成した場合には、それを見直して提出していただくだけでOKです。）

まもなく新学期！ 新学期に向けた授業や研修の準備をワークショップでワイワイ・ガヤガヤと楽しく準備しましょう！

理論をもとにした看護教育デザイン研修 ” インストラクショナル・デザインワークショップ ”

テーマ

日時・場所

2007年3月10日(土)9:00～18:00

熊本大学医学部保健学科

研修の概要

効果的・効率的・魅力的な看護教育を、より合理的に（楽に）デザインすることを目指す研修です。理論を学ぶ講義と理論を使う作業を交互に行うワークショップ形式で、実際の授業案・研修案を作りながら学んでいきます。

このような人にお勧めします

- ・授業や研修の準備をしなくてはならない → **授業案や研修案の素案ができます**
- ・授業や研修を改善したいけど糸口が見つからない → **たぶん見つかります**
- ・より良い教育をするための理論を学びたい → **看護教育に役立つ理論を学べます**
- ・インストラクショナル・デザインとは何かを知りたい → **体験しながら学べます**

講師プロフィール

北村 士朗 熊本大学社会文化科学研究科 教授システム学専攻 助教授

インストラクショナル・デザイナー、学習環境デザイナー、研修インストラクター。東京海上日動や東京大学先端研で実務家教育の研究・実践に携わった後、現職。「研修や授業をデザインできるインストラクター（講師）」の養成で定評がある。この他にも、インストラクターをお招きする予定です。

主な内容

(予定)ワークショップ形式で、講義と作業を交互に行い、授業案を作ります。

- ・シラバスの確認と補完「シラバスから授業案へ」
- ・学習目標と前提知識の明確化「出口と入口を明らかにする」
- ・学習モデルと授業法「あの手この手で学ばせる」
- ・動機付けのデザイン「ヤルキのカガク」

対象者

看護教員または看護師、助産師、保健師

- ・平成19年度に看護基礎教育または看護師の卒後研修を担当する予定があり、本ワークショップで作成した授業案を実際に使うことができる人。
(または将来、担当する予定がある人)
 - ・所定の事前課題・事後課題に取り組み、期限までにご提出いただける人。
(課題の想定所要時間：事前課題1～2時間程度、事後課題1～3時間程度)
- 事前課題1 事前アンケートへの記入
事前課題2 シラバスまたは研修の概要

募集人員

30名

参加費

無料

留意事項

1. 時間的制約などからすべてのプログラムに参加できないが、インストラクショナル・デザインに興味・関心がある人は、最初の講義（1時間程度）だけの参加もできます。
2. 駐車場は、保健学科の駐車場を利用できますが、数に限りがありますので、最寄りの公共交通機関をご利用ください。
3. 研修後、会費制で軽い懇談会を予定しています。

お問い合わせ

〒 862-0976 熊本市九品寺4丁目24-1

熊本大学医学部保健学科 看護学専攻 森田敏子 TEL 096-373-5461

お申し込み方法

参加希望者は、下記のいずれかの方法で、2月末日までにお申し込みください。
お申し込みにあたっては、氏名、所属、住所、電話、職業（職位）、参加動機、担当予定講義（予定の研修）をお書きください。

方法1：電子メール morita@hs.kumamoto-u.ac.jp

方法2：FAX 096-373-5519

なお、このワークショップは、科学研究費助成金（基盤研究（C））によって運営します。）

理論をもとにした看護教育デザイン研修

“インストラクショナル・デザインで研修・授業を改善！”

日 時	2008年2月23日(土)9:00～18:00
場 所	熊本大学医学部保健学科
研修の概要	看護教育の授業や研修をより効果的・効率的・魅力的なものにするために、より合理的にデザインすることを目指す研修です。理論を学ぶ講義と授業案(研修案)をクラス全体で検討するクラスワーク方式で行います。
こんな人にお勧め	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や研修の準備をしなければならない。 → 授業や研修の準備(設計)のヒントが得られます。 ・授業や研修を改善したいけど糸口が見つからない。 → 多分見つかります。 ・インストラクショナル・デザインについて知りたい。 → 体験しながら学べます。
講師のプロフィール	<p>北村 士朗 熊本大学社会文化科学研究科 教授システム学専攻 准教授 インストラクショナル・デザイナー、研修インストラクター。 東京海上日動や東京大学先端研で実務家教育の研究・実践に携わった後、現職。 「研修や授業をデザインできるインストラクター(講師)」の養成で定評がある。</p> <hr/> <p>森田 敏子 熊本大学医学部保健学科看護学専攻 教授 熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻でインストラクショナル・デザインについて学んでいる科目等履修生。魅力的な授業ができないか模索している。</p>
主な内容	<p>講義とクラスワークを行い、授業案・研修案を改善していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスから授業案へ、学習モデルと授業法「あの手、この手で学ばせる」 ・ 学習目標と前提知識の明確化;「出口と入り口ってなあに」 ・ 動機づけのデザイン;ヤル気の科学「ARCS 理論を取り入れよう」
対象者	<p>看護教員または看護師、助産師、保健師</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成20年度に、本ワークショップで検討した授業案または研修案を実際に使う予定のある人 (または、将来、担当する予定がある人) 2. 事前課題(アンケートの記入、シラバスまたは研修の概要)に取り組み、期限までに提出できる人 <p>＜クラスワークで発表(授業案の紹介)をしていただく方(若干名)を募集します＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表していただくことで、講師やクラスのメンバーから貴重なアドバイスを得ることができます。 ・希望者多数の場合は、主催者側で選考させていただきます。発表者には、後日発表要領をご連絡します。
事前課題 事後課題	<p>シラバスと授業案(シラバスがなければ不要)、または研修計画案を申し込み時に郵送で提出してください。</p> <p>授業案または研修計画案を改定したものを提出していただきます。</p>
参加費	無 料
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 駐車場を開放しますので、<u>自家用車を利用できます</u>。 2. 希望者には実費でお弁当を準備します。 3. 研修後、1時間程度の茶話会(会費:200円)を予定します。 <p>学びや課題を話し合えたら嬉しいです。</p>
問い合わせ	熊本大学医学部保健学科 森田 敏子 電話 096-373-5461
申し込み方法	<p>参加希望者は、<u>FAX(096-373-5519)</u>か、メール(morita@hs.kumamoto-u.ac.jp)で2月8日(金)までにお申し込み下さい。</p> <p>申し込みでは、<u>氏名、所属、住所、電話、職業・職位、担当予定講義(研修)、参加動機、昨年参加の有無、弁当の希望の有無をお書きください。</u></p>

授業案・研修案の送付先住所

〒862-0976 熊本市九品寺4丁目24番1号

熊本大学医学部保健学科 森田 敏子

なお、このワークショップは、科学研究費(基盤研究C)によって運営します。

理論をもとにした看護教育デザイン研修 “インストラクショナル・デザイン”ワークショップ

年度末 のこの時期を、あわただしくお過ごしのことと思います。
そして、まもなく新学期ですね。

新学期に向けた授業や研修の準備は、一人で頭を痛めがち。
みんなとワイワイガヤガヤ言いながら、楽しく準備できたらいいですね。
そこで、「より良い授業をしたい。」「もっと良い研修をしたいのだけれど。」
「どうすれば、もっと楽しい授業や研修ができるか知りたい。」
「シラバスは書いたものの、実際に授業をどう展開すれば良いのか迷う。」
という方のための **ワークショップ** をご案内致します。



ワークショップ では、平成20年度に看護基礎教育または看護師の卒後研修を担当する予定の皆さんに、すでに考えているシラバス(案)、または研修計画(案)をもとに検討していきます。

授業や研修の効果・効率・魅力を高めるための方法論である**インストラクショナル・デザイン(ID)**の「**I D アイディーの“ア”**」から学びながら、実際にどのような授業(講義・演習・実習)をするか、学習者が学べたかどうか、どうやって確かめるのか、学習者への動機付けはどうするのか、といったことを検討していきます。

ワークショップ で実際の授業案を検討することから、平成20年度以降に看護基礎教育または看護師の卒後研修を担当される予定の方を対象とします。授業担当の予定はないが、「将来、授業や研修を企画・運営する可能性がある」「授業改善に興味がある」「**インストラクショナル・デザイン**」に興味がある方も歓迎。その場合、ご自分が担当する可能性がある授業や研修のシラバスを仮想で作り、下記の課題に取り組んで提出していただきます。

新年度 に向けて授業や研修の準備の一環としてご参加ください。

事前課題: シラバスと授業案(全体でも1科目でも結構です。)を郵送で提出。
事後課題: 授業案または研修計画案の改定版を提出。

まもなく 新学期！新学期に向けた授業や研修の準備をワークショップでワイワイ・ガヤガヤ言いながら楽しく準備しましょう！
申し込みは、別紙を参照してください。

熊本大学医学部保健学科 森田 敏子

“インストラクショナル・デザイン” ワークショップアンケート（開始前）

熊本大学医学部保健学科
森田 敏子

このたびは、「ワークショップ “インストラクショナル・デザイン”」に参加いただき、ありがとうございます。
主催者は、看護教員あるいは看護職員が、インストラクショナル・デザインの力を高める研究を行っております。
そこで、お手数をお掛けして恐縮ですが、本アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。
当日（ 月 日）持参してください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

問1. 「良い授業や研修を行うために重要なこと」についてお答えください。

- (1) 思いつくものを列挙してください。（例；知識・ツールなど）
- (2) 列挙し終わったら順位を3つまで付けてください。

例：(1)重要だと思うこと	(2)順位
講師の話術	3
教える内容の理解（看護に関する専門知識）	1
教員または講師としての経験	2

(1) 重要だと思うこと	(2)順位

問 2. 「インストラクショナル・デザイン」という言葉について、5段階で気持ちをつけてください。

5段階：とてもそう思う＝5 やや思う＝4 思う＝3 あまり思わない＝2 思わない＝1

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| (1) 「インストラクショナル・デザイン」が分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (2) 前から「インストラクショナル・デザイン」は興味を持てる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (3) 前から「インストラクショナル・デザイン」は面白い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (4) 「インストラクショナル・デザイン」は難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (5) 「インストラクショナル・デザイン」を勉強したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (6) 「インストラクショナル・デザイン」を使いたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (7) 「インストラクショナル・デザイン」を研究したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (8) その他：具体的に： | | | | | |

問 3. 「インストラクショナル・デザイン」について、該当するものに○をつけてください。

①e ラーニングに使うものだ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
②使うと教育が均質になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
③使うと教育は個性的になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
④使うと教育の質が高まる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑤使うと教育や研修が面白くなる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑥使うと授業や研修が魅力的になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑦使うと教材の見た目が美しくなる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑧使うと学生や受講生との双方向授業が可能になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑨使うと学生や受講生の復習が可能になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑩使うと学生・受講生参加型の授業や研修になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑪使うなら授業や研修の目標分析が必要である	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑫使うなら講師はパソコンが必要だ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑬使うなら講師だけでなく学生や受講生にもパソコンが必要だ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑭使うのは面倒だ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑮使のは難しい	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑯「ID」と略される	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑰CAI（個別学習支援システム）と同じである (Computer Assisted Instruction)	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない

問4. 「シラバス」について、5段階で気持ちをつけてください。

5段階：とてもそう思う＝5		やや思う＝4	思う＝3	あまり思わない＝2	思わない＝1		
(1)	このワークショップでどのようなものか知りたい。	→	5	4	3	2	1
(2)	シラバスの必要性が分かりたい	→	5	4	3	2	1
(3)	シラバスの重要性が分かりたい	→	5	4	3	2	1
(4)	シラバスに興味を持ちたい	→	5	4	3	2	1
(5)	教員・講師として作り方の勉強をしたい	→	5	4	3	2	1
(6)	教員・講師として作り方の研究をしたい	→	5	4	3	2	1
(7)	その他（具体的に：						

問5. 教員・講師・指導者として

(1)	研修計画立案の経験は	→	1回	2回	3回	4回	5回以上	なし	わからない
(2)	シラバス作成の経験は	→	1回	2回	3回	4回	5回以上	なし	わからない

問6. シラバス作成で、重要なこと（知識・スキル・ツールなど）について思いつくものを列挙し、重要と思うものに順位をつけてください。

例：

(1)重要だと思うこと	(2)順位
作文能力	3
教える内容の理解（看護に関する専門知識）	1
教員または講師としての経験	2

(1) 重要だと思うこと	(2)順位

問7. このワークショップに参加しようと思った動機は何ですか。5段階で気持ちをつけてください。

とてもそう思う＝5 やや思う＝4 思う＝3 あまり思わない＝2 思わない＝1

1. 漠然とためになりそうと思ったから	5	4	3	2	1
2. 「インストラクショナル・デザイン」という言葉に興味があったから	5	4	3	2	1
3. インストラクショナル・デザイン」が何かを知りたかったから	5	4	3	2	1
4. 「インストラクショナル・デザイン」という能力を高めたいと思ったから	5	4	3	2	1
5. 「シラバス」または研修計画を、初めて作る必要があるから	5	4	3	2	1
6. 「シラバス」または研修計画を、もっと充実させたいと思ったから	5	4	3	2	1
7. 「シラバス」に「インストラクショナル・デザイン」を生かして作りたいから	5	4	3	2	1
8. より魅力的な授業・研修をしたいから	5	4	3	2	1
9. わかりやすい授業・研修をしたいから	5	4	3	2	1
10. 学生や研修生を受け入れる人が予習や復習をするようになるから	5	4	3	2	1
11. 学生参加型の授業をしたいから	5	4	3	2	1
12. 良い授業や良い研修をするために、悩んでいたから	5	4	3	2	1

問8. 授業・研修をするとき、心がけていることについて、5段階で気持ちをつけてください。

とてもそう思う＝5 やや思う＝4 思う＝3 あまり思わない＝2 思わない＝1

1. 学生または受講者の目をパッチリ開けさせる：知覚的喚起	5	4	3	2	1
2. 学生または受講者の好奇心を大切にする：探求心の喚起	5	4	3	2	1
3. マンネリを避ける：変化性	5	4	3	2	1
4. 学生または受講者の関心のある得意分野から例を取りあげる：親しみやすさ	5	4	3	2	1
5. 学生・受講者を目標に向かわせる：目標指向性	5	4	3	2	1
6. プロセスを楽しませる：動機との一致	5	4	3	2	1
7. 何ができたならゴールインとするかをはっきり具体的に示す：学習欲求	5	4	3	2	1
8. 一歩ずつ確かめて進ませる：成功の機会	5	4	3	2	1
9. 学生・受講者に自分でコントロールさせる：コントロールの個人化	5	4	3	2	1
10. むだに終わらせない：自然な結果	5	4	3	2	1
11. ほめて認める：肯定的な結果	5	4	3	2	1
12. 裏切らない：公平さ	5	4	3	2	1
13. 学生または受講者の準備状態・前提条件を明確にしている	5	4	3	2	1
14. 学生または受講者の学習目標（到達目標）を明確にしている	5	4	3	2	1
15. 意図的教育観にもとづく：教えようと努力し、教える意図がある	5	4	3	2	1
16. 成功的教育観にもとづく：教える行為が成功しているかどうかを重視する	5	4	3	2	1
17. 意図的教育観と成功的教育観では、成功的教育観が強い（大きい）	5	4	3	2	1
18. 学習者の注意を喚起している	5	4	3	2	1
19. 授業の目標を知らせている	5	4	3	2	1

20. 前提条件を思い出させている	5	4	3	2	1
21. 新しい事項を提示する	5	4	3	2	1
22. 学習の指針を与える	5	4	3	2	1
23. 練習の機会を設ける	5	4	3	2	1
24. フィードバックを与える	5	4	3	2	1
25. 学習の成果を評価する	5	4	3	2	1
26. 保持と転移（ここで学んだことを他の学習に役立てる）を高める	5	4	3	2	1
27. モデリング（模範を示す）を心がけている	5	4	3	2	1
28. コーチング（熟達者が手とり足取り指導・助言）を心がけている	5	4	3	2	1
29. スキャンフォルディング（できるところはやらせ、できないところを支援）を心がけている	5	4	3	2	1
30. フェイディング（だんだんと支援を少なくしていき、学習者を自立に導く）を心がけている	5	4	3	2	1

問9. これまで受けた授業や研修で最も良いと思ったもの／最悪だったものについて

(1)最も良い授業や研修：どのようなものか

* 良かった理由

(2)最悪だった授業や研修：どのようなものか

* 悪かった理由

問 11. その他、なんでも自由にお書き下さい。

(1) 性別：男 女

(2) 年齡：21~25 歲 26~30 歲 31~35 歲 36~40 歲 45~50 歲 55 歲以上

(3) 職業

①看護実務者：看護師 助産師 保健師 その他（ ）

②看護教育者：専門学校の教員 高校の教員 短大の教員 大学の教員、その他（ ）

③その他 ()

(4) 看護職としての実務経験

① 看護実践家として：1年未満 2～3年 4～6年 7～9年 10年以上

② 看護教員として : 1 年未満 2 ～ 3 年 4 ～ 6 年 7 ～ 9 年 10 年以上

(5) 教育者または指導者としての経験（どのような教育的役割を果たしてきたか）

① 卒後研修の企画や指導者として

② 看護教育者として

(6)今後の見通しについて

① 授業のシラバスや研修計画を立案する予定 あり なし わからない

② 授業や研修を行う場合、いつ、誰に、どのような内容で行う予定ですか。悩み、迷っていること。

以上です。 お疲れ様でした。 ありがとうございました。 感謝！

“インストラクショナル・デザイン” ワークショップアンケート（実施後）

熊本大学医学部保健学科
森田 敏子

「ワークショップ “インストラクショナル・デザイン”」に参加いただき、ありがとうございました。
主催者は、看護教員あるいは看護職員が、インストラクショナル・デザインの力を高める研究を行っております。
ワークショップを終えてお疲れのところ恐縮ですが、本アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。
ご賛同いただけましたら、ご記入いただき、回収箱にお入れください。

- 問1. 「良い授業や研修を行うために重要なこと」についてお答えください。
- (1) 思いつくものを列挙してください。（例；知識・ツールなど）
- (2) 列挙し終わったら順位を3つまで付けてください。

例：(1)重要だと思うこと	(2)順位
講師の話術	3
教える内容の理解（看護に関する専門知識）	1
教員または講師としての経験	2

(1) 重要だと思うこと	(2)順位

問2.「インストラクショナル・デザイン」という言葉について、5段階で気持ちをつけてください。

5段階：とてもそう思う＝5 やや思う＝4 思う＝3 あまり思わない＝2 思わない＝1

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| (1) 「インストラクショナル・デザイン」が分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (2) 前から「インストラクショナル・デザイン」は興味が持てる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (3) 前から「インストラクショナル・デザイン」は面白い。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (4) 「インストラクショナル・デザイン」は難しい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (5) 「インストラクショナル・デザイン」を勉強したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (6) 「インストラクショナル・デザイン」を使いたい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (7) 「インストラクショナル・デザイン」を研究したい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (8) その他：具体的に： | | | | | |

問3.「インストラクショナル・デザイン」について、該当するものに○をつけてください。

①e ラーニングに使うものだ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
②使うと教育が均質になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
③使うと教育は個性的になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
④使うと教育の質が高まる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑤使うと教育や研修が面白くなる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑥使うと授業や研修が魅力的になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑦使うと教材の見た目が美しくなる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑧使うと学生や受講生との双方向授業が可能になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑨使うと学生や受講生の復習が可能になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑩使うと学生・受講生参加型の授業や研修になる	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑪使うなら授業や研修の目標分析が必要である	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑫使うなら講師はパソコンが必要だ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑬使うなら講師だけでなく学生や受講生にもパソコンが必要だ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑭使うのは面倒だ	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑮使のは難しい	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑯「ID」と略される	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない
⑰CAI（個別学習支援システム）と同じである (Computer Assisted Instruction)	①そう思う	②違うと思う	③どちらともいえない	④わからない

問4. 「シラバス」について、5段階で気持ちをつけてください。

5段階：とてもそう思う＝5		やや思う＝4	思う＝3	あまり思わない＝2	思わない＝1		
(1)	このワークショップでどのようなものか知った。	→	5	4	3	2	1
(2)	シラバスの必要性が分かった	→	5	4	3	2	1
(3)	シラバスの重要性が分かった	→	5	4	3	2	1
(4)	シラバスに興味を持てた	→	5	4	3	2	1
(5)	教員・講師として作り方の勉強をしたい	→	5	4	3	2	1
(6)	教員・講師として作り方の研究をしたい	→	5	4	3	2	1
(7)	その他（具体的に：						

問5. 教員・講師・指導者として

(1)	研修計画立案の経験は	→	1回	2回	3回	4回	5回以上	なし	わからない
(2)	シラバス作成の経験は	→	1回	2回	3回	4回	5回以上	なし	わからない

問6. シラバス作成で、重要なこと（知識・スキル・ツールなど）について思いつくものを列挙し、重要と思うものに順位をつけてください。

例：

(1) 重要だと思うこと	(2) 順位
作文能力	3
教える内容の理解（看護に関する専門知識）	1
教員または講師としての経験	2

(1) 重要だと思うこと	(2) 順位

問7. このワークショップに参加しようと思った動機・目的は満たされましたか。

あてはまるものがあれば、5段階で気持ちをつけてください。

とてもそう思う＝5 やや思う＝4 思う＝3 あまり思わない＝2 思わない＝1

1. 漠然とためになりそうと思ったから	5	4	3	2	1
2. 「インストラクショナル・デザイン」という言葉に興味があったから	5	4	3	2	1
3. インストラクショナル・デザイン」が何かを知りたかったから	5	4	3	2	1
4. 「インストラクショナル・デザイン」という能力を高めたいと思ったから	5	4	3	2	1
5. 「シラバス」または研修計画を、初めて作る必要があるから	5	4	3	2	1
6. 「シラバス」または研修計画を、もっと充実させたいと思ったから	5	4	3	2	1
7. 「シラバス」に「インストラクショナル・デザイン」を生かして作りたいから	5	4	3	2	1
8. より魅力的な授業・研修をしたいから	5	4	3	2	1
9. わかりやすい授業・研修をしたいから	5	4	3	2	1
10. 学生や研修生を受け入れる人が予習や復習をするようになるから	5	4	3	2	1
11. 学生参加型の授業をしたいから	5	4	3	2	1
12. 良い授業や良い研修をするために、悩んでいたから	5	4	3	2	1

問8. 授業あるいは研修をするとき、心がけていることについて、5段階で気持ちをつけてください。

とてもそう思う＝5 やや思う＝4 思う＝3 あまり思わない＝2 思わない＝1

1. 学生または受講者の目をパッチリ開けさせる：知覚的喚起	5	4	3	2	1
2. 学生または受講者の好奇心を大切にする：探求心の喚起	5	4	3	2	1
3. マンネリを避ける：変化性	5	4	3	2	1
4. 学生または受講者の関心のある得意分野から例を取りあげる：親しみやすさ	5	4	3	2	1
5. 学生・受講者を目標に向かわせる：目標指向性	5	4	3	2	1
6. プロセスを楽しませる：動機との一致	5	4	3	2	1
7. 何ができたらゴールインとするかをはっきり具体的に示す：学習欲求	5	4	3	2	1
8. 一歩ずつ確かめて進ませる：成功の機会	5	4	3	2	1
9. 学生・受講者に自分でコントロールさせる：コントロールの個人化	5	4	3	2	1
10. むだに終わらせない：自然な結果	5	4	3	2	1
11. ほめて認める：肯定的な結果	5	4	3	2	1
12. 裏切らない：公平さ	5	4	3	2	1
13. 学生または受講者の準備状態・前提条件を明確にしている	5	4	3	2	1
14. 学生または受講者の学習目標（到達目標）を明確にしている	5	4	3	2	1
15. 意図的教育観にもとづく：教えようと努力し、教える意図がある	5	4	3	2	1
16. 成功的教育観にもとづく：教える行為が成功しているかどうかを重視する	5	4	3	2	1
17. 意図的教育観と成功的教育観では、成功的教育観が強い（大きい）	5	4	3	2	1
18. 学習者の注意を喚起している	5	4	3	2	1

19. 授業の目標を知らせている	5	4	3	2	1
20. 前提条件を思い出させている	5	4	3	2	1
21. 新しい事項を提示する	5	4	3	2	1
22. 学習の指針を与える	5	4	3	2	1
23. 練習の機会を設ける	5	4	3	2	1
24. フィードバックを与える	5	4	3	2	1
25. 学習の成果を評価する	5	4	3	2	1
26. 保持と転移（ここで学んだことを他の学習に役立てる）を高める	5	4	3	2	1
27. モデリング（模範を示す）を心がけている	5	4	3	2	1
28. コーチング（熟達者が手とり足取り指導・助言）を心がけている	5	4	3	2	1
29. スキャンフォルディング（できるところはやらせ、できないところを支援）を心がけている	5	4	3	2	1
30. フェイデング（だんだんと支援を少なくしていき、学習者を自立に導く）を心がけている	5	4	3	2	1

問9. これまで受けた授業や研修で最も良いと思ったもの／最悪だと思ったものについて

(1)最も良い授業や研修：どのようなものか

* 良かった理由

(2)最悪だった授業や研修：どのようなものか

* 悪かった理由

問 10. 教員あるいは講師、指導者として解決したい**教育・指導上の悩み**があったらお書きください。

問 11. その他、**なんでも自由**にお書き下さい。

問 12. あなたについてお聞きします。該当するものに○をつけてください。

(1) 性別：男 女

(2) 年齢：21～25 歳 26～30 歳 31～35 歳 36～40 歳 45～50 歳 55 歳以上

(3) 職業

①看護実務者：看護師 助産師 保健師 その他（ ）

②看護教育者：専門学校の教員 高校の教員 短大の教員 大学の教員、その他（ ）

③その他（ ）

(4) 看護職としての実務経験

① 看護実践家として：1 年未満 2～3 年 4～6 年 7～9 年 10 年以上

② 看護教員として：1 年未満 2～3 年 4～6 年 7～9 年 10 年以上

(5) 教育者または指導者としての経験（どのような教育的役割を果たしてきたか）

① 卒後研修の企画や指導者として

② 看護教育者として

(6)今後の見通しについて

① 授業のシラバスや研修計画を立案する予定 あり なし わからない

② 授業や研修を行う場合、いつ、誰に、どのような内容で行う予定ですか。悩み、迷っていること。

以上です。 お疲れ様でした。 ありがとうございます。 感謝！

看護教員のインストラクショナルデザイン力
の開発に関する研究

A Study on the Development of Nursing Teachers' Skill
in Instructional Design

平成 18 年度～20 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））
（研究課題番号 18592317）

代表者 森田 敏子

発行 2009 年 3 月 1 日 第 1 版第 1 号

編集 熊本大学医学部保健学科看護学専攻基礎看護学 森田敏子

〒862-0976 熊本市九品寺 4-24-1

TEL 096-373-5461 FAX 096-373-5519

印刷 緒方印刷所

〒862-0920 熊本市月出 2-3-42

TEL 096-384-2821 FAX 096-384-9323
